

淑徳大学

授業アンケート全学報告書

2015 年度

淑徳大学 高等教育研究開発センター

目次

【第一部】 平成 27 年度淑徳大学授業アンケートの概要・集計結果

- 1. 授業アンケートの目的 P1
- 2. 本報告書の目的 P1
- 3. 平成 27 年度淑徳大学授業アンケートの概要 P2
- 4. 授業アンケート集計結果 P5

【第二部】 授業満足度を規定する因の探索的分析

- 5. 第二部の概要 P22
- 6. 学生満足度が高い授業とは ～授業単位データを用いた分析～ P27
- 7. 授業方法は授業満足度にどう影響するか ～個別データを用いた分析～ P47
- 平成 27 年度 学生用 授業アンケート調査票[前学期・後学期] ... P55

第一部

－ 平成 27 年度淑徳大学授業アンケートの概要・集計結果 －

1. 淑徳大学授業アンケートの目的

淑徳大学は、平成 26 年度より授業アンケートを全学統一で実施するため、平成 25 年度から平成 26 年度に大学自己点検評価委員会、高等教育研究開発センター及び授業アンケートのワーキンググループで授業アンケートの見直しの作業を行い、平成 27 年度は2年目となります。

この授業アンケートを実施する目的は、社会から負託された大学の教育・研究の使命を遂行するため、大学として組織的に教育責任の遂行と教育成果の確認を行うとともに、教育活動において大きな比重を占める授業の改革や改善を推進することで、教育の質を高めることです。

そのために、授業アンケートで得た学生の意見や要望をくみ取り、それを授業の改革や改善に反映させることで、教員一人ひとりが授業の自己点検・評価のPDCAサイクルを回しています。さらに、教員一人ひとりの授業の改革や改善のみならず、大学及び学部として組織的な授業の改革と改善に向けた取組みも併せて行い、学生の学修意欲を引出し、学修効果を高めるための教育改革を組織的に推進しています。

言うまでもありませんが、教員及び大学組織によるこれからの取組みの成果は、学生へ還元されるものであり、その為に本報告書を作成及び公開いたします。

2. 本報告書の目的

本報告書は、組織的な授業の改革と改善に資することを目的として「大学・学部」※の階層である大学全体及び各学部の「調査概要、調査目的、該当者の属性、質問ごとの分析(学部間及び経年変化)」を大学教育向上委員会及び高等教育研究開発センターが集計・分析・作成したものです。

また本報告書の基本となるデータは、学生向けアンケートであり、第1部において学部別の集計の場合は、例えば総合福祉学部と記載してある図は、総合福祉学部 に在籍する学生が回答した授業アンケートの集計結果となります。

※淑徳大学授業アンケートの分析は、「大学・学部」「学部・学科(課程)」「授業担当教員」の階層別に行います。分析について、「大学・学部」は大学教育向上委員会を中心として、高等教育研究開発センターと連携を行い、大学及び学部間の経年変化等の分析を行います。「学部・学科(課程)」は学部教育向上委員会を中心として現状や課題に応じた分析を行い、「授業担当教員」は各教員が授業の自己点検として、各科目の帳票を基に PDCA サイクルを実行します。

3. 平成 27 年度淑徳大学授業アンケートの概要

(1)授業アンケート対象科目

2015 年度、開講している全授業科目(学外の実習科目を除く)を対象に実施しています。実習科目については、それぞれの学部等の特性に応じた様式を用いてアンケートを実施している場合があります。

(2)授業アンケートの種類

授業アンケートは、淑徳大学全学部統一様式にて、次の 2 種類について実施しています。

- 学生による授業評価 :学生向けアンケート
- 教員による授業の自己点検:教員向けアンケート

本報告書は、学生向けアンケートを「大学・学部」の単位で分析・報告をするものです。

(3)学生向けアンケートの実施時期

実施時期は、前学期・後学期各1回ずつ(年2回)とし、原則として、半期 15 回授業の場合は 13 回目以降に学生向けアンケートを実施しています。(半期 8 回の授業の場合は 6 回目以降、半期 30 回の授業の場合は 25 回目以降に実施しています。)

オムニバス科目についても半期1回の実施となり、例えば 2 人で 15 回の授業を実施する授業でも 13 回目以降に学生向けアンケートを実施しています。

(4)アンケートの実施方法

2015 年度はアンケート実施授業回の授業終了前 10 分間を使用して、無記名の紙媒体で実施しています。

(5)授業アンケート対象科目及び回収枚数

平成 27 年度淑徳大学授業アンケート(学生向けアンケート)は、表1の通りに年間 2,195 科目(大学全体)を対象とし、授業アンケートを実施しています。対象科目総計履修人数を母数とした回答率は、75.71%です。なお、複数の学部にもまたがって開講している科目もある為、学部別の対象科目数や学生アンケート実施科目数の集計は行っておりません。

表1 平成 27 年度淑徳大学授業アンケート(学生向けアンケート)実施概要

	対象科目	学生アンケート 実施科目	対象科目総計 履修者数 ①	回答枚数 ②	回答率(②/ ①)
前期	1,063	1,051	41,883	32,012	76.43%
後期	1,132	1,107	37,852	28,362	74.92%
年間	2,195	2,158	79,735	60,374	75.71%

本報告書の集計結果は、大学別及び学部別で算出及び公表しています。大学全体及び学部別の学生アンケート回答数は表2の通りです。在籍学生数、CAP 制(単位の過剰登録を防ぐため、1 年間あるいは 1 学期間に履修登録出来る単位の上限を設ける制度)及び学部の開設年度が平成 26 年以降の為に年次進行中である、学生募集を停止しているといった理由から回答数は学部によって大きく異なります。

表2 平成 27 年度淑徳大学学生用アンケート学部別回答数

	学生アンケート 回答数(枚)	
	前期	後期
大学全体	32,012	28,362
総合福祉学部	11,921	12,080
国際コミュニケーション学部	1,311	1,088
看護栄養学部	9,820	4,298
コミュニティ政策学部	1,968	1,921
経営学部	3,877	3,313
教育学部	3,147	3,190
人文学部	2,408	1,983

(6) アンケートの質問項目について

淑徳大学授業アンケート、学生向けアンケートは、「Ⅰ. 授業の構成について」「Ⅱ. 授業方法について」「Ⅲ. 授業に対する評価について」「Ⅳ. 授業環境について」「Ⅴ. 自由記述欄」について、計19の質問を行いました。質問紙については巻末 P42 をご参照下さい。

(7) 本調査結果の分母について

以下の集計は、学生一人一人の回答ベースで集計したものであり、分母は学生アンケート回答数(枚)です。なお、QⅠ-2 及びQⅠ-3 は、次の論理矛盾回答処理を実施し、母数は表3(QⅠ-2) 及び表4(QⅠ-3)となります。

●QⅠ-1「授業説明の有無」で「あまりそう思わない、全くそう思わない」と回答

→QⅠ-2「授業説明の理解度」及びQⅠ-3「授業説明の取組み度」を非該当として処理

●QⅠ-2「授業説明の理解度」で「あまりそう思わない、全くそう思わない」と回答

→QⅠ-3「授業説明の取組み度」を非該当として処理

表3 平成 27 年度淑徳大学学生用アンケート学部別 Q I -2「授業説明の理解度」回答数

	該当回答数	
	前期	後期
大学全体	29,908	26,390
総合福祉学部	11,202	11,339
国際コミュニケーション学部	1,248	1,050
看護栄養学部	6,384	3,975
コミュニティ政策学部	1,779	1,743
経営学部	3,606	3,094
教育学部	2,933	2,901
人文学部	2,233	1,852

表4 平成 27 年度淑徳大学学生用アンケート学部別 Q I -3「授業説明の取組み度」回答数

	該当回答数	
	前期	後期
大学全体	28,564	25,277
総合福祉学部	10,683	10,818
国際コミュニケーション学部	1,215	1,034
看護栄養学部	6,136	3,825
コミュニティ政策学部	1,638	1,633
経営学部	3,443	2,997
教育学部	2,868	2,792
人文学部	2,107	1,758

また、本報告書第二部は、株式会社生活環境工房あくと様にご協力いただき、作成致しました。

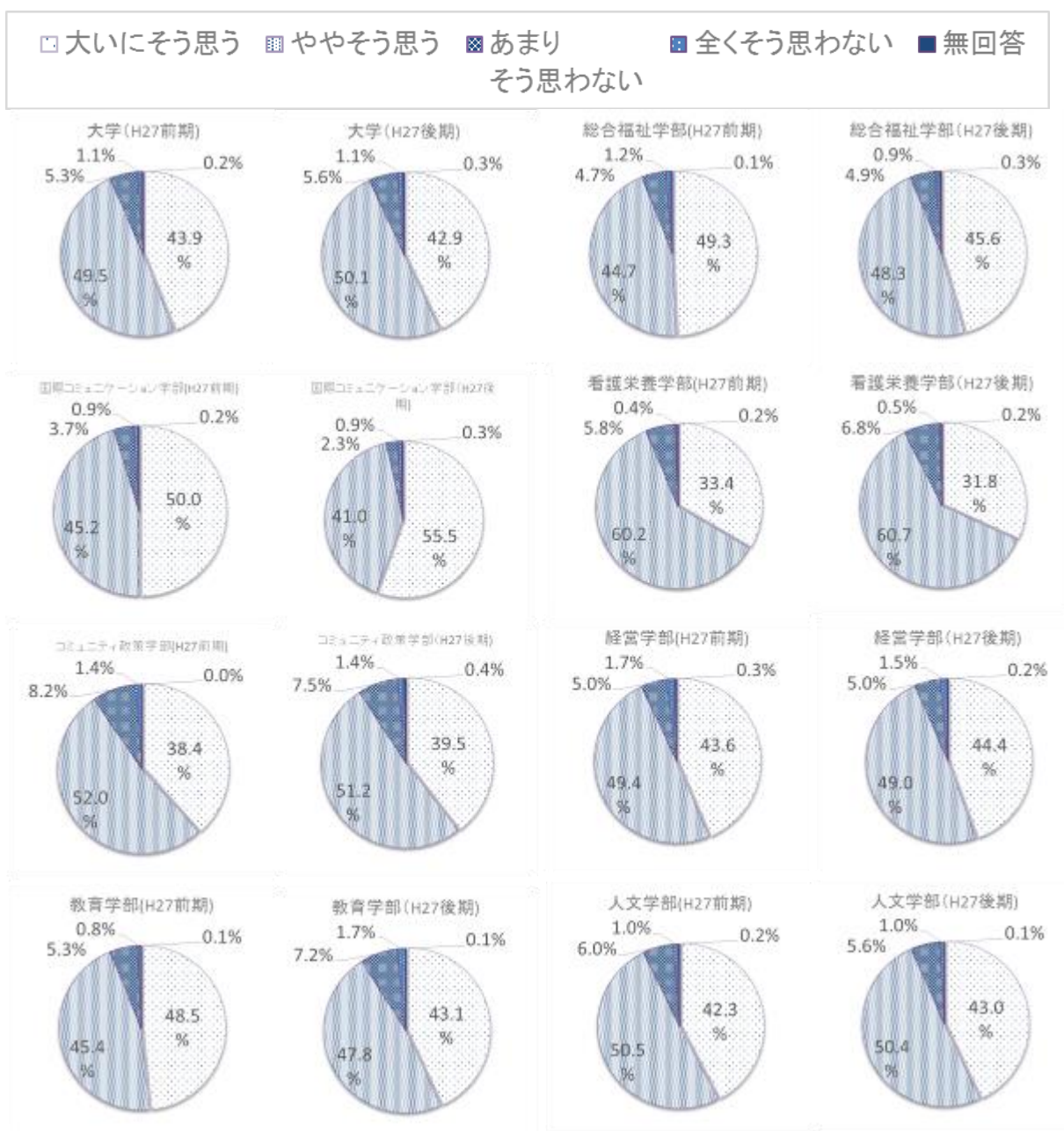
4. 授業アンケート集計結果

(1) 授業の構成について

① I-1「初回の授業において、授業目的、授業内容、到達目標、評価方法等の説明がありましたか」

授業の初回において、担当教員から授業目的や到達目標等の説明があったと答えた学生は、「大いに思う」及び「やや思う」を合わせると、大学全体では前期後期とも90.0%を超えている為、授業担当教員と学生との間に授業の概要の共有化がかなりされています。(図1)また学部別の結果についても、どの学部も「大いに思う」及び「やや思う」を合わせて90.0%を超えておりますが、「大いに思う」を回答した割合は学部間で差が見られます。

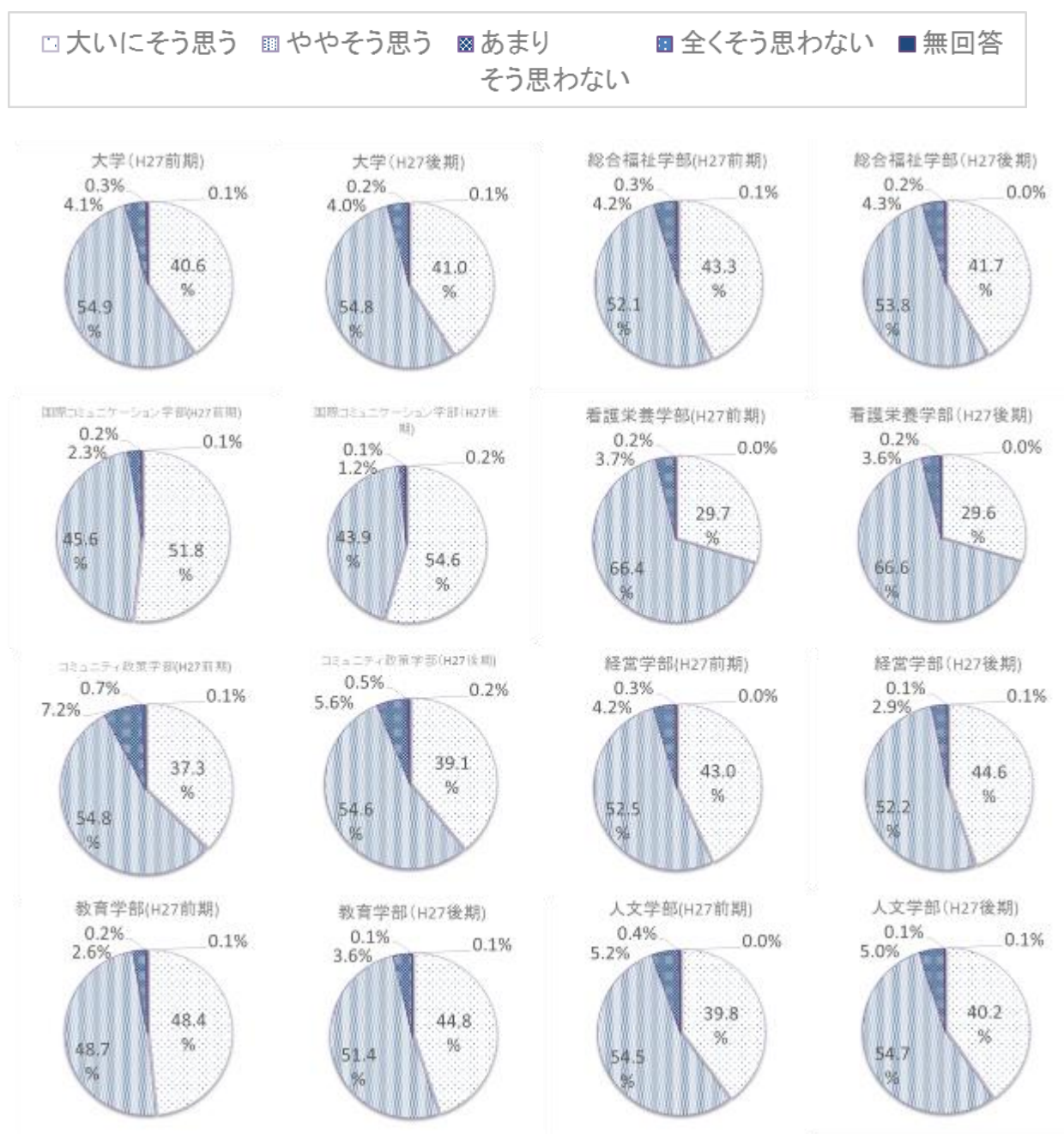
図1 I-1 授業初回の授業概要の説明



② I-2「あなたは、その説明に対して理解ができましたか」

この質問は、I-1授業の初回に行った授業の概要の理解度についての内容です。図2によれば、大学全体では、「大いにそう思う」及び「ややそう思う」を合わせると95.0%を超えており、ほとんどの学生は授業の目的、授業内容、到達目標、評価方法等を理解して授業を受けています。学部別もほとんど大学全体と同様の結果であり、受講している学生のほとんどは授業の到達目標や評価方法を理解しているといえます。

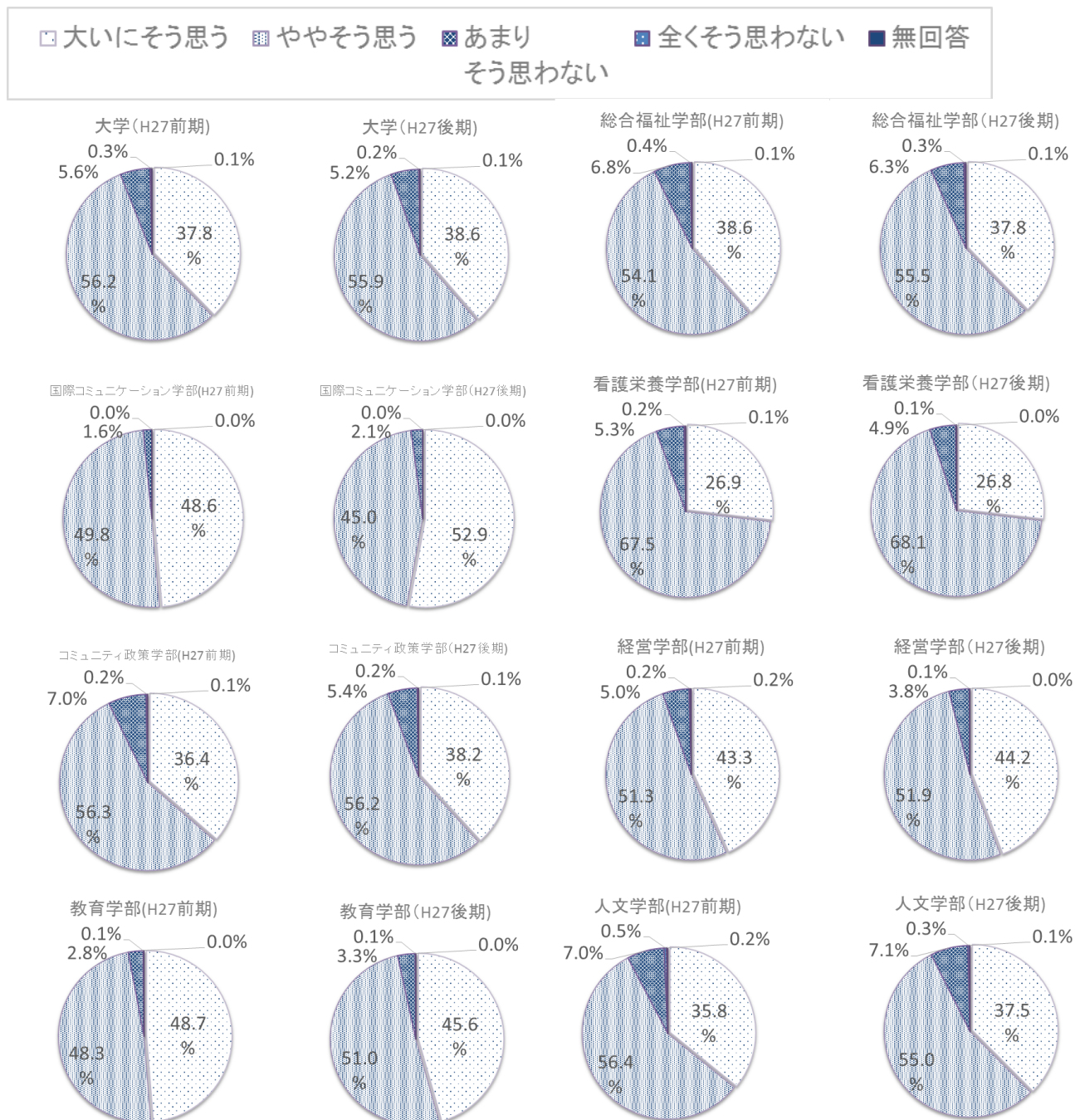
図2 I-2 学生の授業概要説明の理解



③ I－3「あなたは、理解した内容を達成するため、意欲的に取り組みましたか」

図3によると、大学では「大いにそう思う」と答えた学生は約30%以上であり、授業の初回で説明された内容を達成するために意欲的に取り組んでいます。しかし、学部間では「大いにそう思う」の回答の傾向や、「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」を合わせた回答割合の傾向に幾分か特徴が見られます。特に「あまりそう思わない」と「全くそう思わない」の割合が小さくない学部は、どのようにしたら学生が意欲的に取り組むように工夫するかは課題であると言えます。

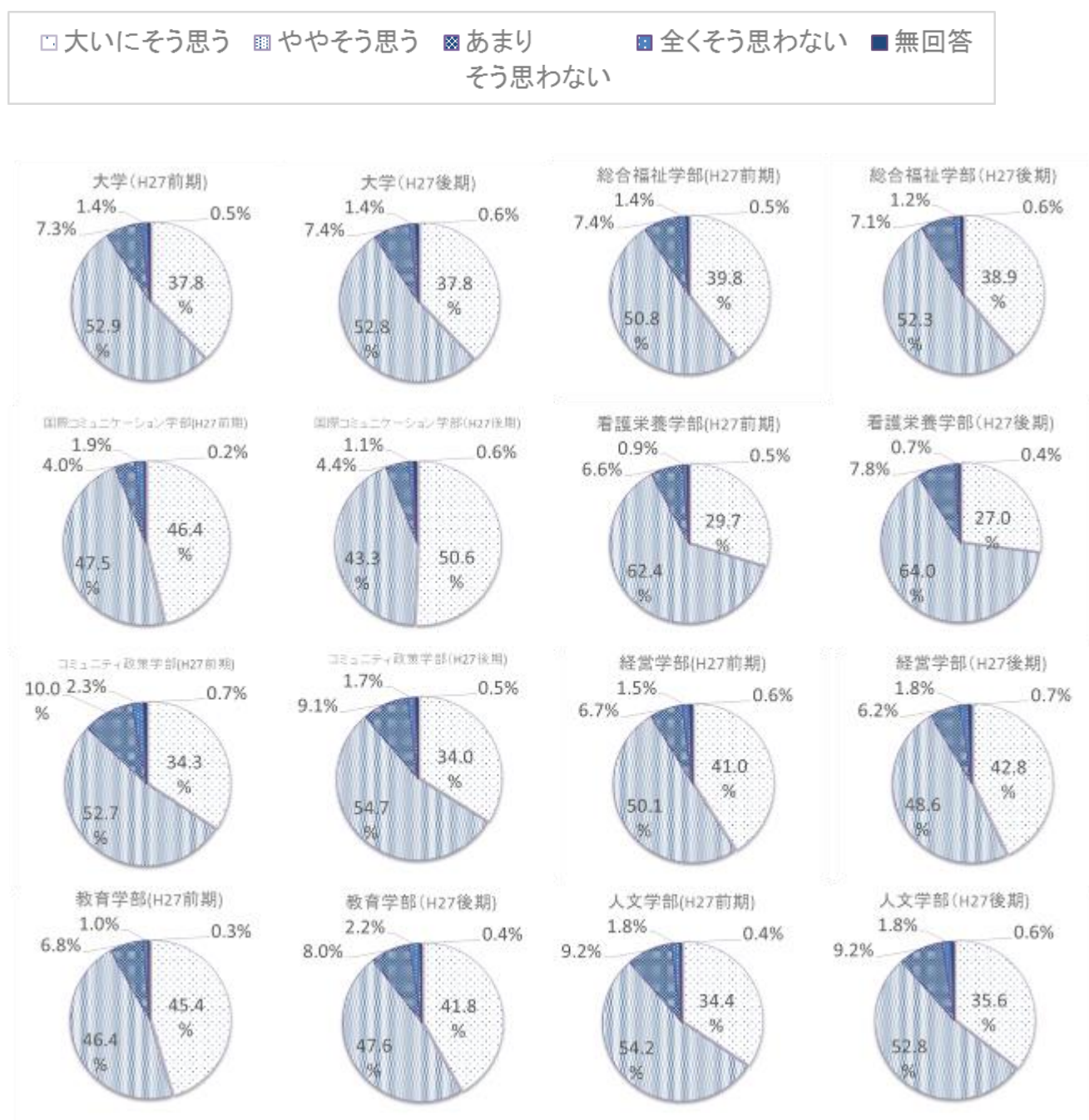
図3 I－3 意欲的に取り組んだか



④ I-4「授業はシラバスにそって行われましたか」

授業内容や到達目標、評価方法などの授業の全体像を示したシラバスは、教員と学生との間の契約事項とも言えます。また、平成26年度の本調査報告書の分析では、授業満足度に対して影響を与えている影響の一つであることが示されています。今年度は「授業はシラバスにそって行われているか」は、大学全体では前年度同様に「大いにそう思う」「ややそう思う」を併せて約90%がシラバスに沿って授業が行われていると回答がありました。大学として、より一層シラバスにそった授業運営の推進と、学生にシラバスを確認する習慣づけの推進をしていく必要があります。

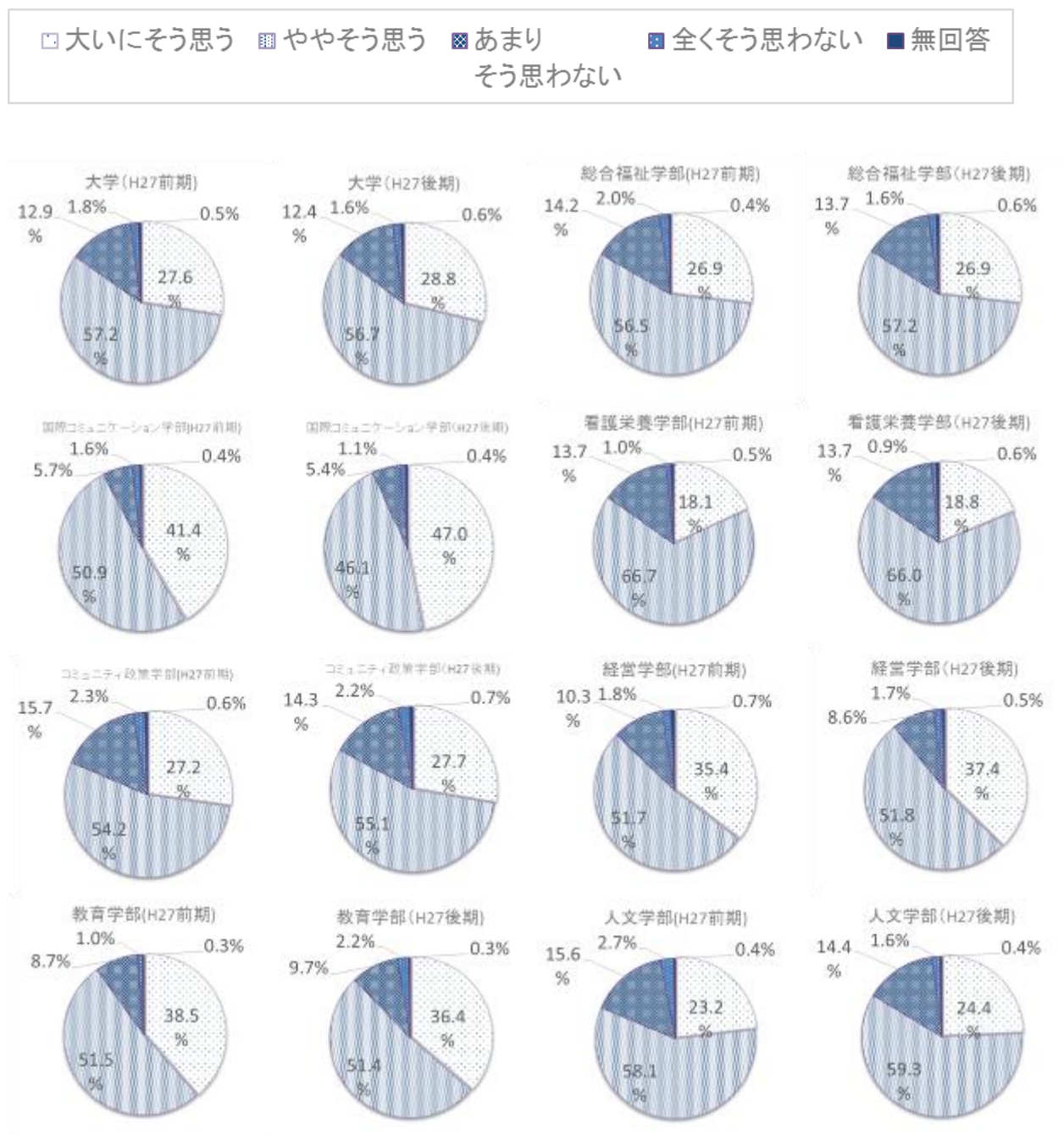
図4 I-4 授業はシラバスにそって行われたか



⑤ I-5「あなたは、シラバスに記載された到達目標を達成できましたか」

大学、学部及び学科で定めている「どのような人材を養成するか」といった方針を達成するために、各科目ではカリキュラムの体系性、順次性にそって科目の到達目標を定めています。図5によれば、大学全体では前期・後期とも「大いに思う」「思う」と答えているのは約85%以上となっています。また学部では、「大いに思う」の割合にばらつきが前期後期共にあります。今後の分析としては、学年や授業規模といった観点からも分析をしていく事も検討します。

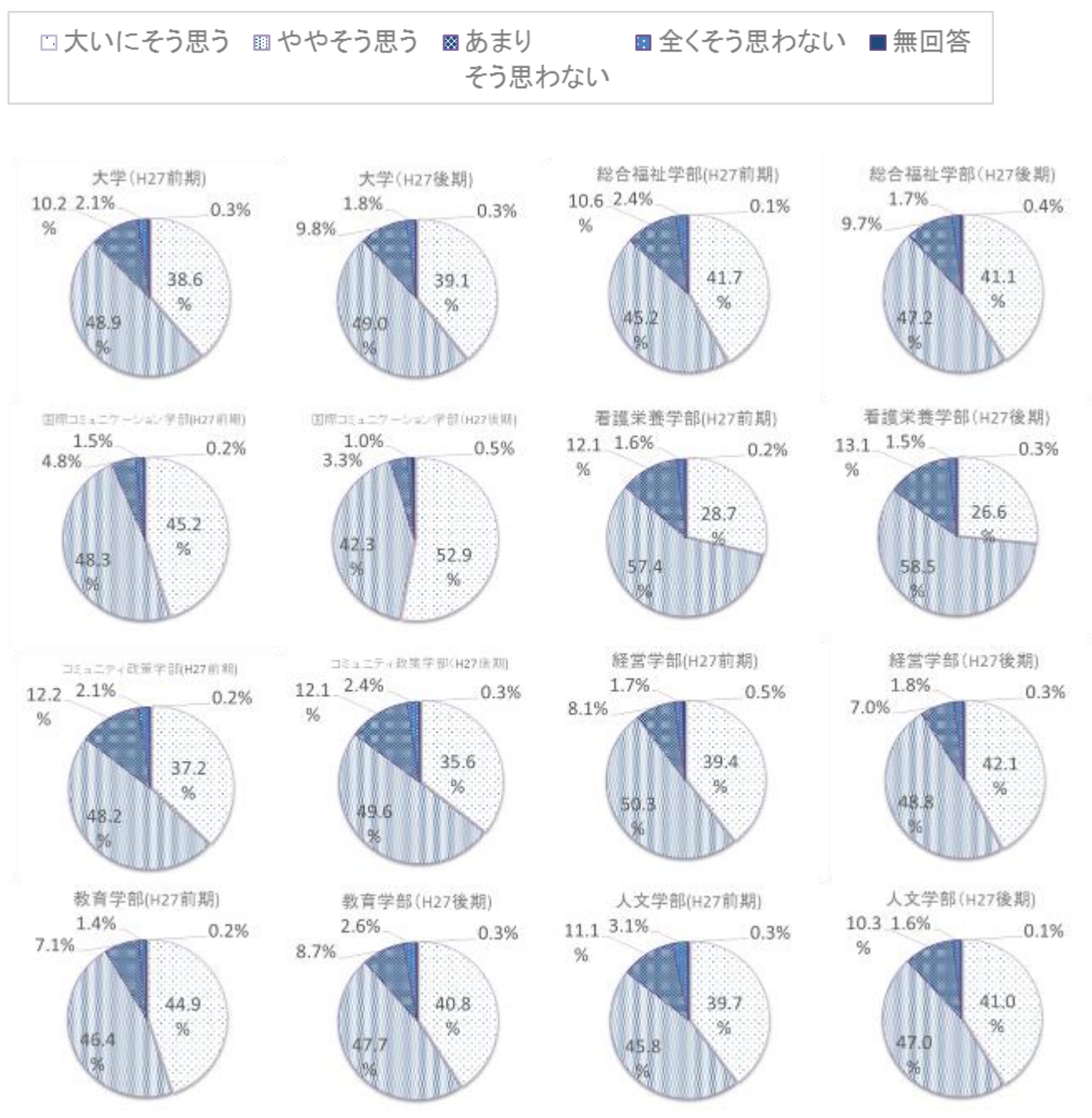
図5 I-5 シラバスに記載された到達目標を達成できたか



⑥ I-6「授業のなかで「事前学習」および「事後学習」等、「授業時間以外の学習内容・方法（資料・課題等）」について、具体的に指示がありましたか」

授業内で事前・事後学習の内容の指示をしているかについて、大学全体では、前期・後期とも約85%以上は「大いにそう思う」「ややそう思う」と回答しています。学部別も、大学全体の結果と同様の傾向が見られました。平成26年度の本調査報告書では、予習・復習時間の長さについては、事前事後学習の指示が影響していると分析結果が出ており、今後も授業回ごとにシラバスを活用しながら具体的な指示を行っていく必要があります。

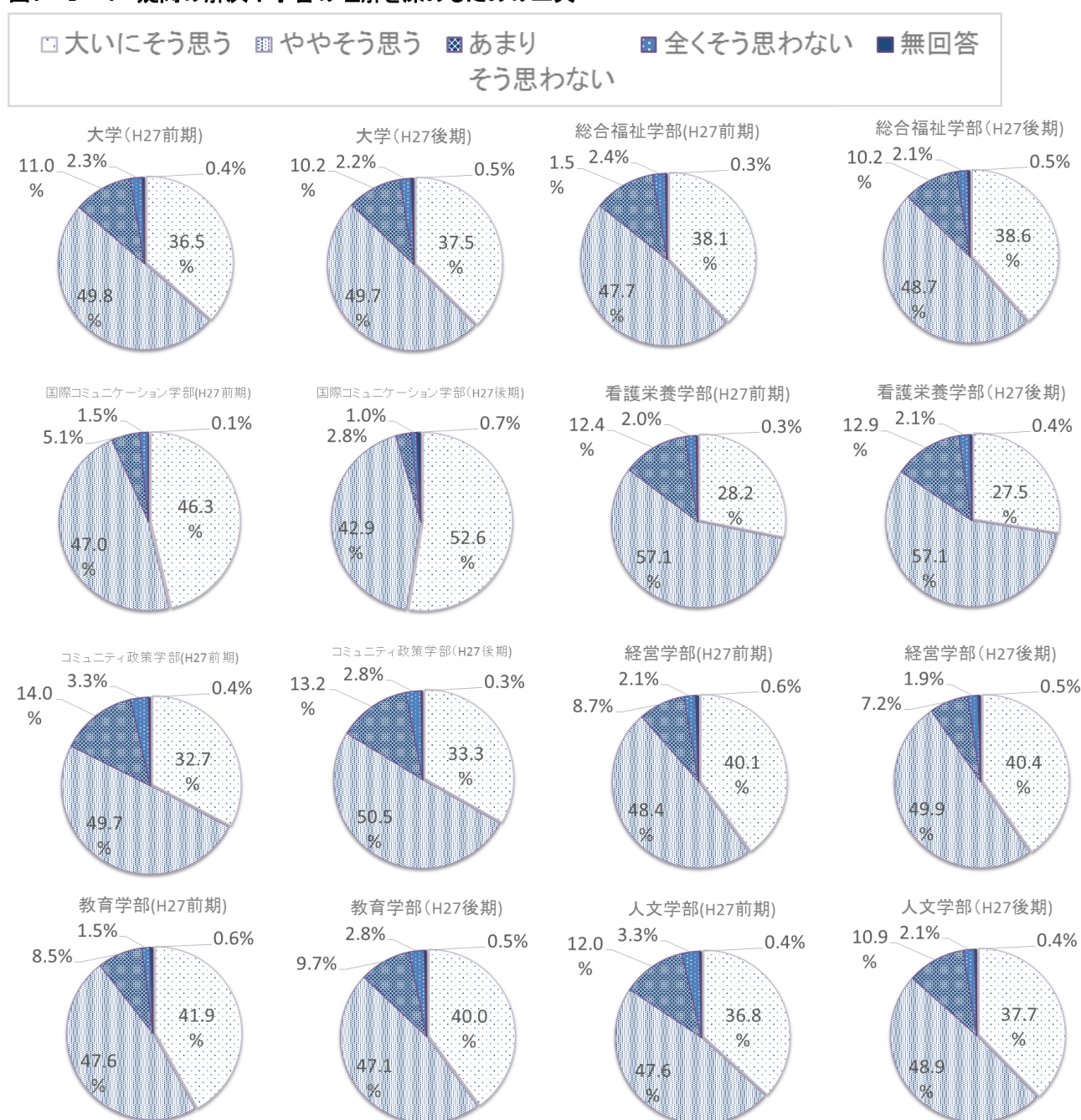
図6 I-6 事前事後学習の指示



⑦ I-7「質疑応答の時間の設定」や「課題レポート・小テストの返却」等、疑問の解決や学習の理解を深めるための工夫はありましたか」

本質問は、学生の理解を促進するための工夫として質疑応答の時間を設けるといった工夫がされているかと聞いています。図7によると大学全体では、前年度と同様に前期・後期とも「大いにそう思う」と「ややそう思う」を合わせて約85%以上の回答がされています。学生の理解を促進する工夫が浸透していると言えますが、今後も各授業科目の到達目標達成の為に、工夫に関するFD(Faculty Development)に取り組む必要があるとも言えます。

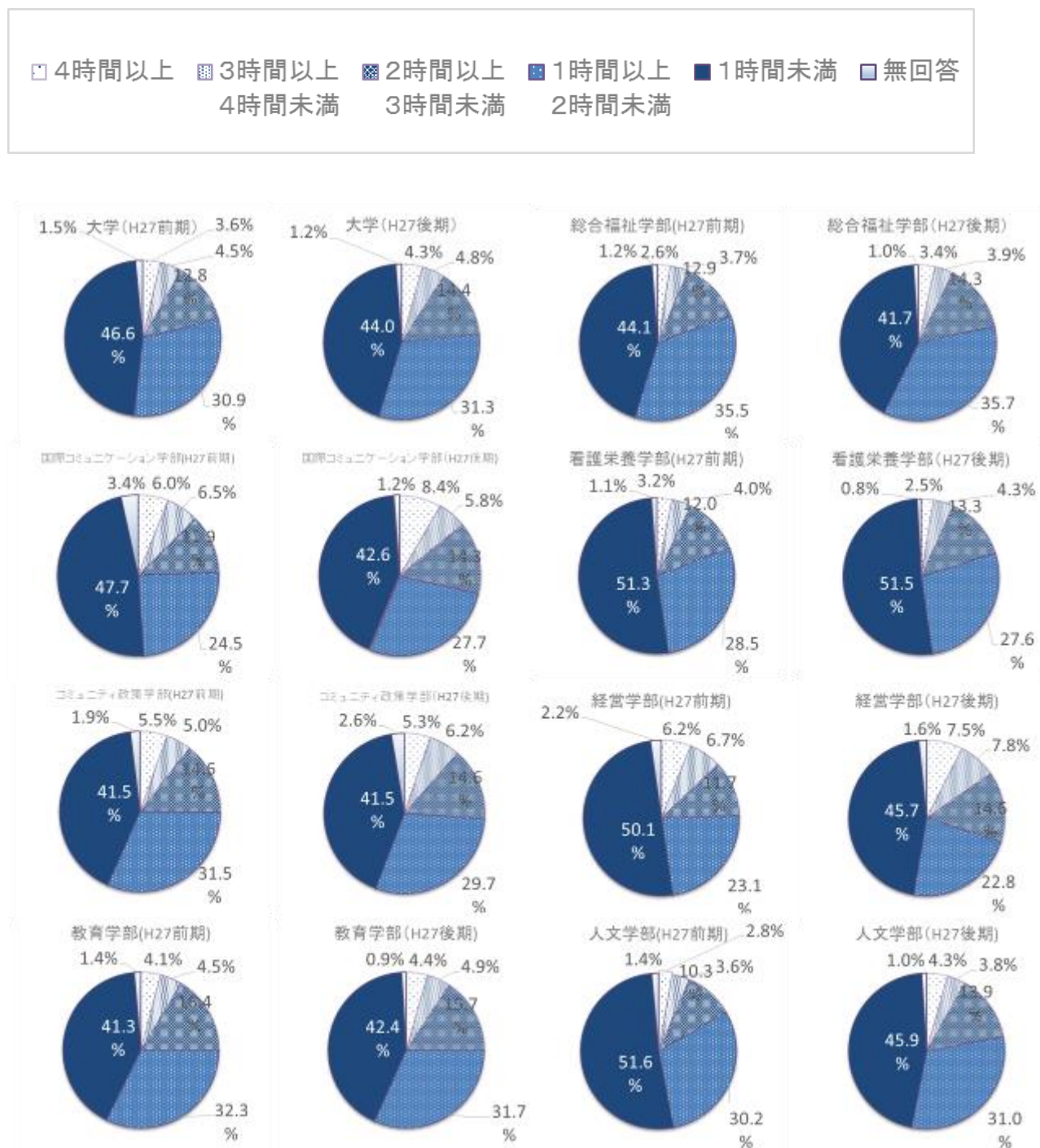
図7 I-7 疑問の解決や学習の理解を深めるための工夫



⑧ I－8「あなたがこの授業1回(90分)のために予習・復習に費やした時間は平均()であった」

本質問では、各科目の授業においてどのぐらいの予習・復習時間(事前・事後学習に費やした時間)を聞いており、大学全体では1時間未満が前期・後期とも約45%となっています。コミュニティ政策学部や教育学部は、1時間未満の割合は前期・後期とも低い傾向にあります。予習・復習の時間を延ばす影響については、平成26年度本調査の報告書第2部に分析結果がありますので、今後その分析結果を活用しながら、学部学科や授業レベルでどのように単位の実質化に取り組むかといったFDが必要と言えます。

図8 I－8 授業1回に費やした予習・復習時間の平均

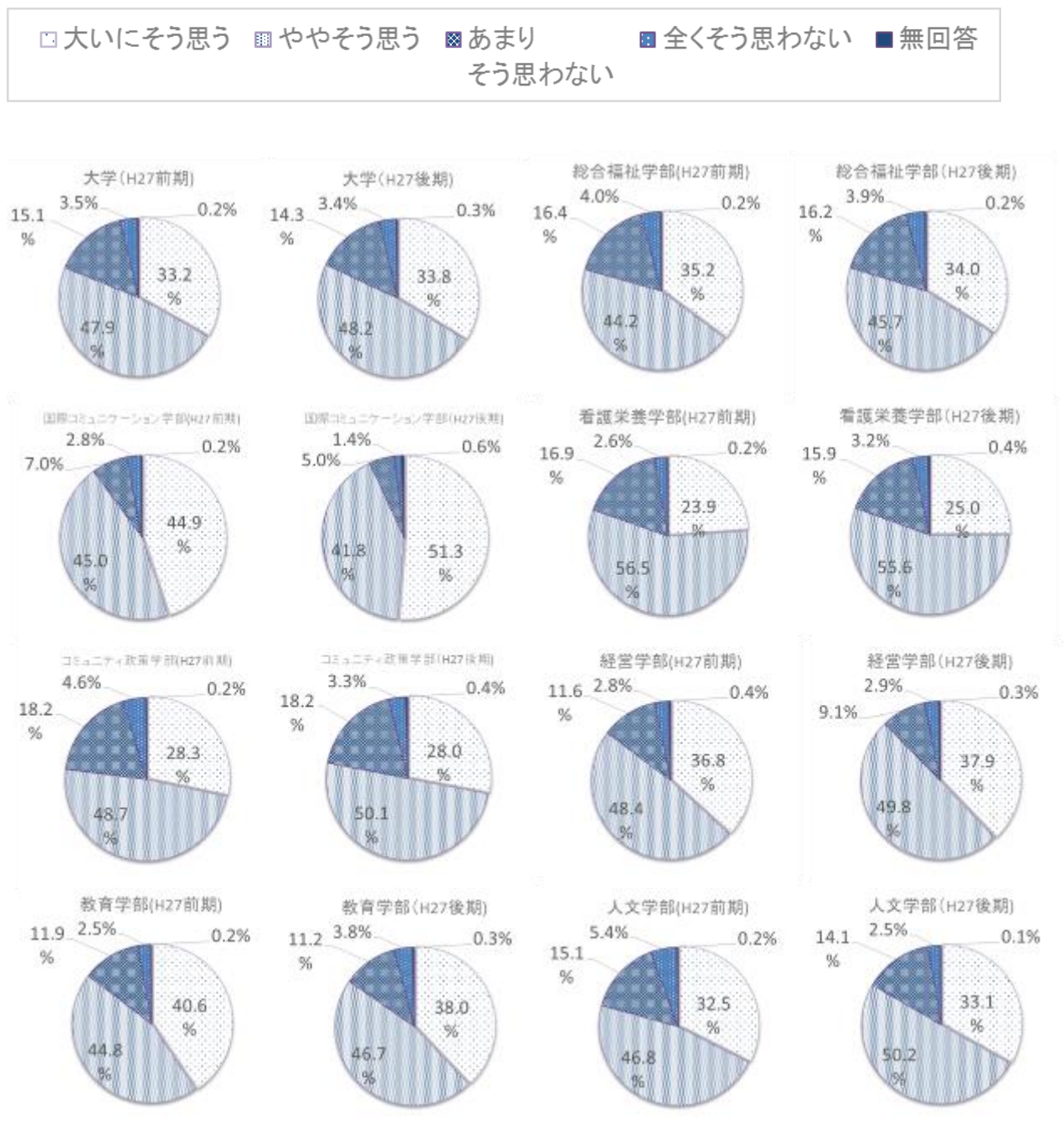


(2) 授業方法について

①Ⅱ－1「双方向型の授業(発表、討論、協同学習、調べ学習等)は、効果的に行われましたか」

本学の平成 26 年度の分析では双方向型の授業は授業満足度に大きく影響を与えています。学生の理解を深めるために双方向型の授業が効果的に行われているとの回答は、「大いにそう思う」「そう思う」を合わせて大学全体では前期・後期とも 75%を超えています。大学全体で双方向型の授業は効果的に行われているようですが、例えば中規模大規模での授業の双方向型の授業を効果的に行う授業の開発などを高等教育研究開発センターや各キャンパスで進めていく必要があります。

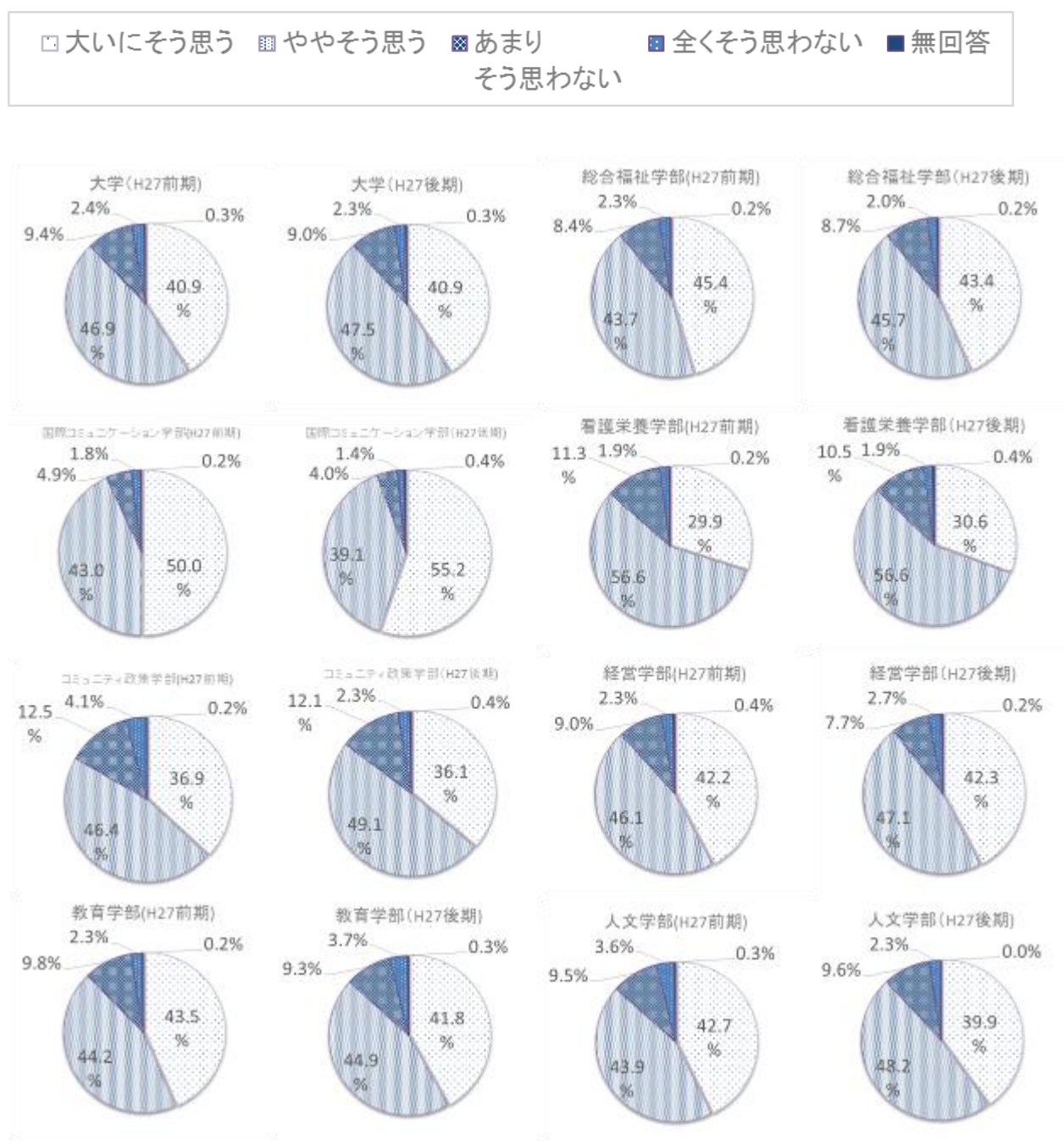
図9 Ⅱ－1 双方向型の授業は効果的に行われたか



②Ⅱ-2「教材(教科書、板書、プリント、スライド、ビデオ等)は、授業の理解に役立ちましたか」

本質問結果(図10)は、大学全体では、「大いにそう思う」は前期・後期とも40.9%となっており、学生は教材が授業の理解に役立っていると感じていることが見て取れます。また、学部別もほとんどの学部で「大いにそう思う」の割合は30~50%となっています。教材は、知的好奇心の刺激と関係しており、教材は効果的に活用され理解の手助けに役立っていると見る事ができます。

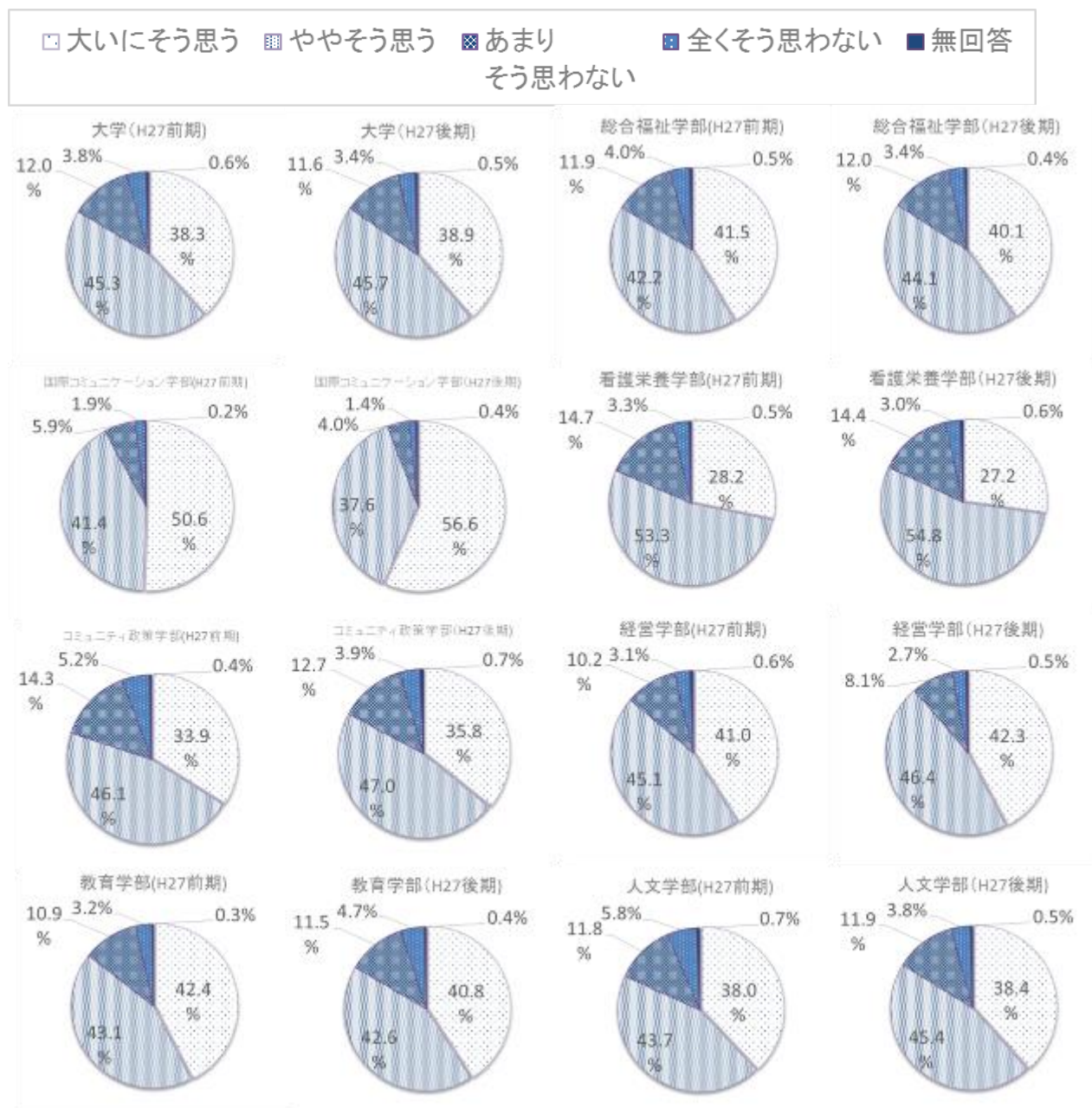
図10 Ⅱ-2 教材は授業の理解に役立ったか



③Ⅱ－3「この授業では、話し方や説明の仕方がわかりやすかったですか」

図11にあるように、授業における話し方や説明の仕方について看護栄養学部は「大いにそう思う」は、25～31%の数値で大学全体と比較すると少し低くなっております。しかし看護栄養学部を含め、大学全体やいずれの学部では、話し方や説明についてわかりやすいと捉えている回答は、「ややそう思う」を合わせると80%から90%になります。一方、「あまりそう思わない」との回答も10%前後あることから、今後FDを通じていっそうわかりやすい授業の推進を行います。

図11 Ⅱ－3 話し方や説明のわかりやすさ

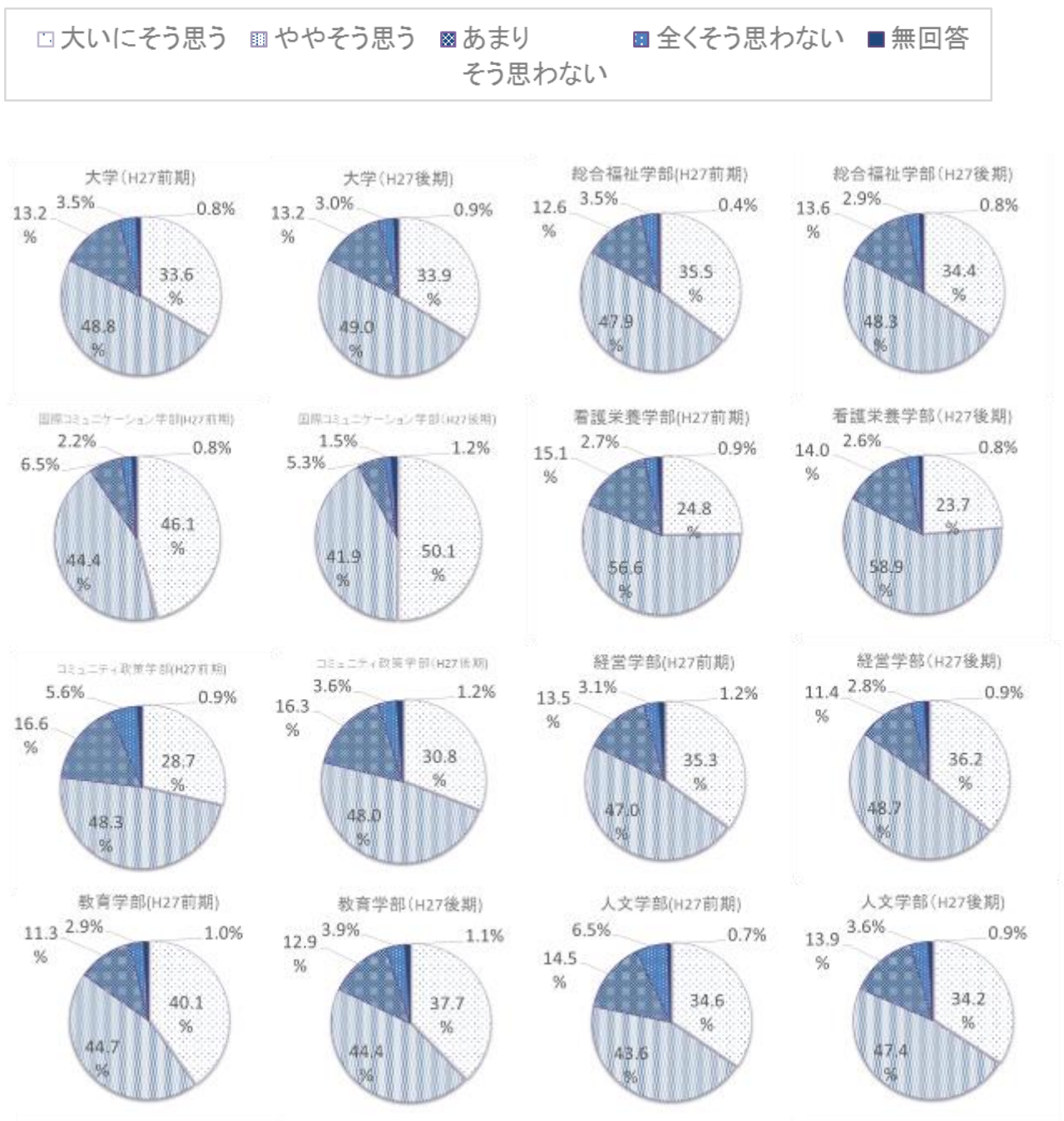


(2) 授業に対する評価について

①Ⅲ－1「この授業をととして知的好奇心が刺激されましたか」

この質問では、授業を通して知的好奇心の刺激についての内容ですが、上級生のための国際コミュニケーション学部は、「大いにそう思う」は、高い数値となっています。また、大学全体では、「大いにそう思う」「ややそう思う」を合わせた数値は80%を超えており、授業を通して知的好奇心への刺激はされているように見られます。

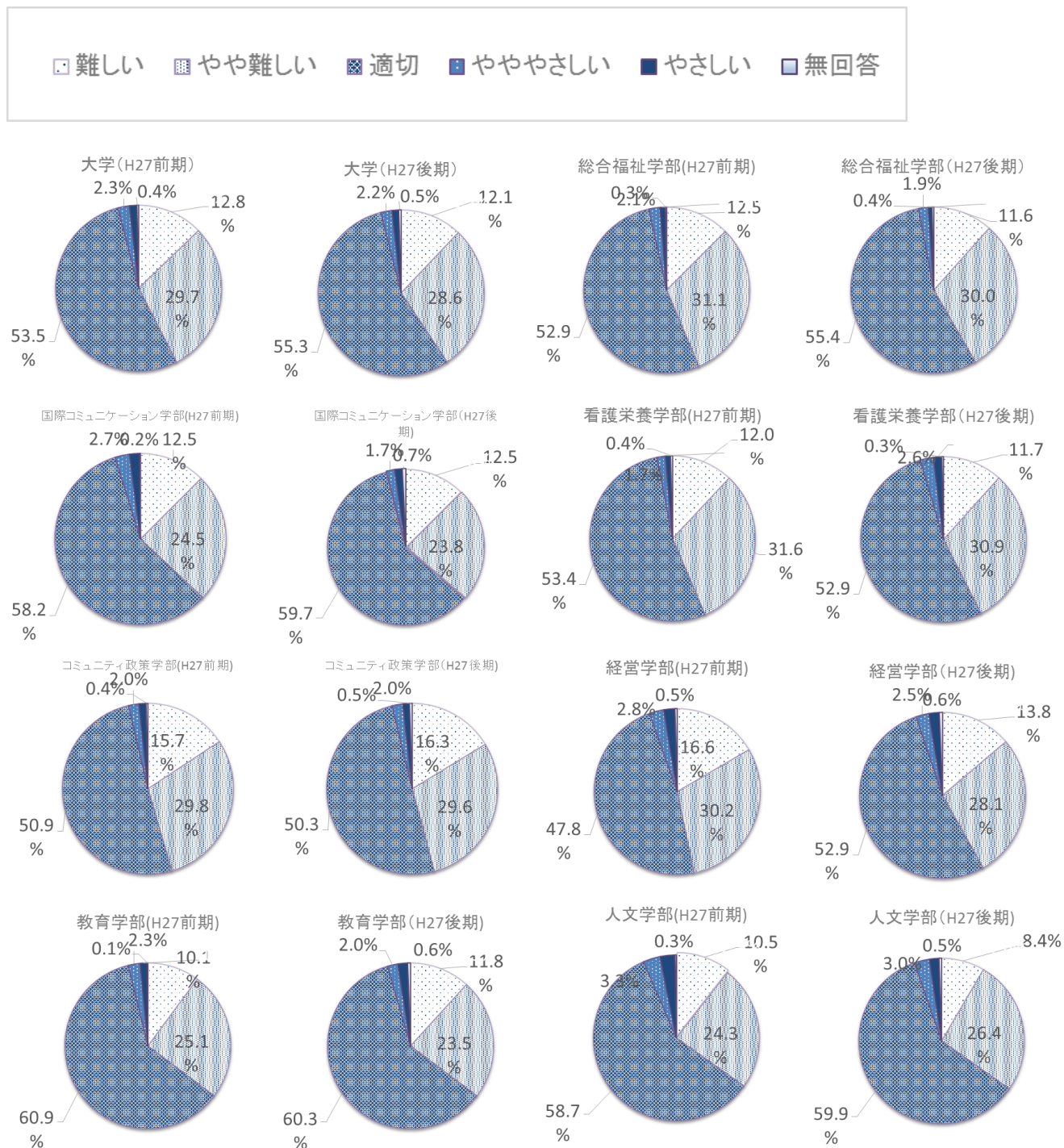
図 12 Ⅲ－1 知的好奇心の刺激



②Ⅲ－２「あなたの授業内容の理解において、難易度は適切でしたか」

授業の難易度は、図 13 によれば、大学全体や経営学部を除く学部では 50%以上は難易度が適切であると回答しています。また適切以外で回答したほとんどは「難しい」もしくは「やや難しい」であり、難易度が「やややさしい」「やさしい」といった回答が比較的少ない傾向にあるようです。

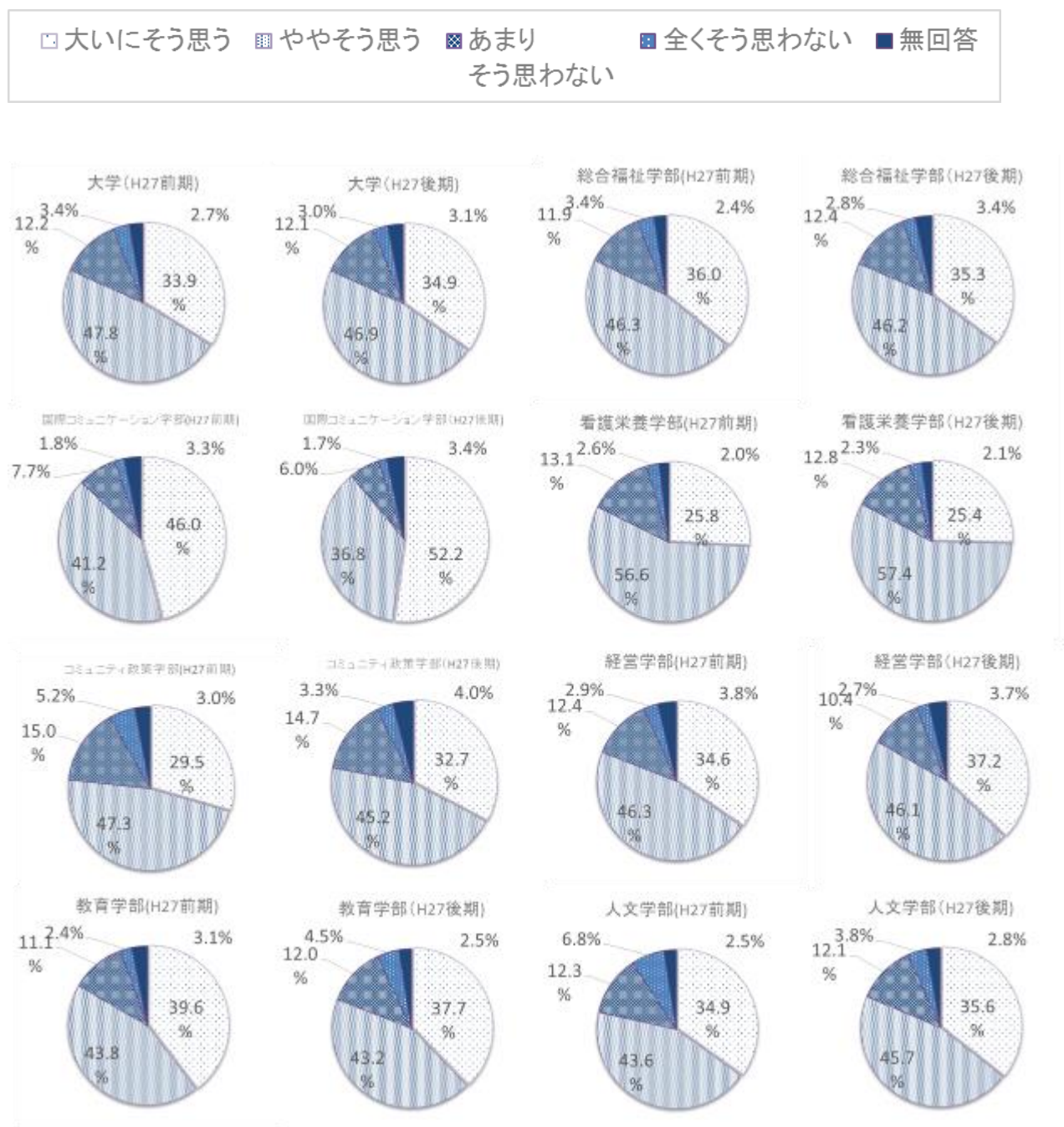
図 13 Ⅲ－２ 難易度の適切さ



③Ⅲ－3「この授業を受講して、満足していますか」

授業の満足度は、大学全体では、「大いにそう思う」「ややそう思う」を合わせて前期・後期とも80%以上となっていますので、満足度は高いようです。学部間では、「大いにそう思う」と答えている割合はだいぶ異なるようです。なお、授業満足度についての探索的な分析は、本報告書第2部で行っています。

図 14 Ⅲ－3 授業の満足度

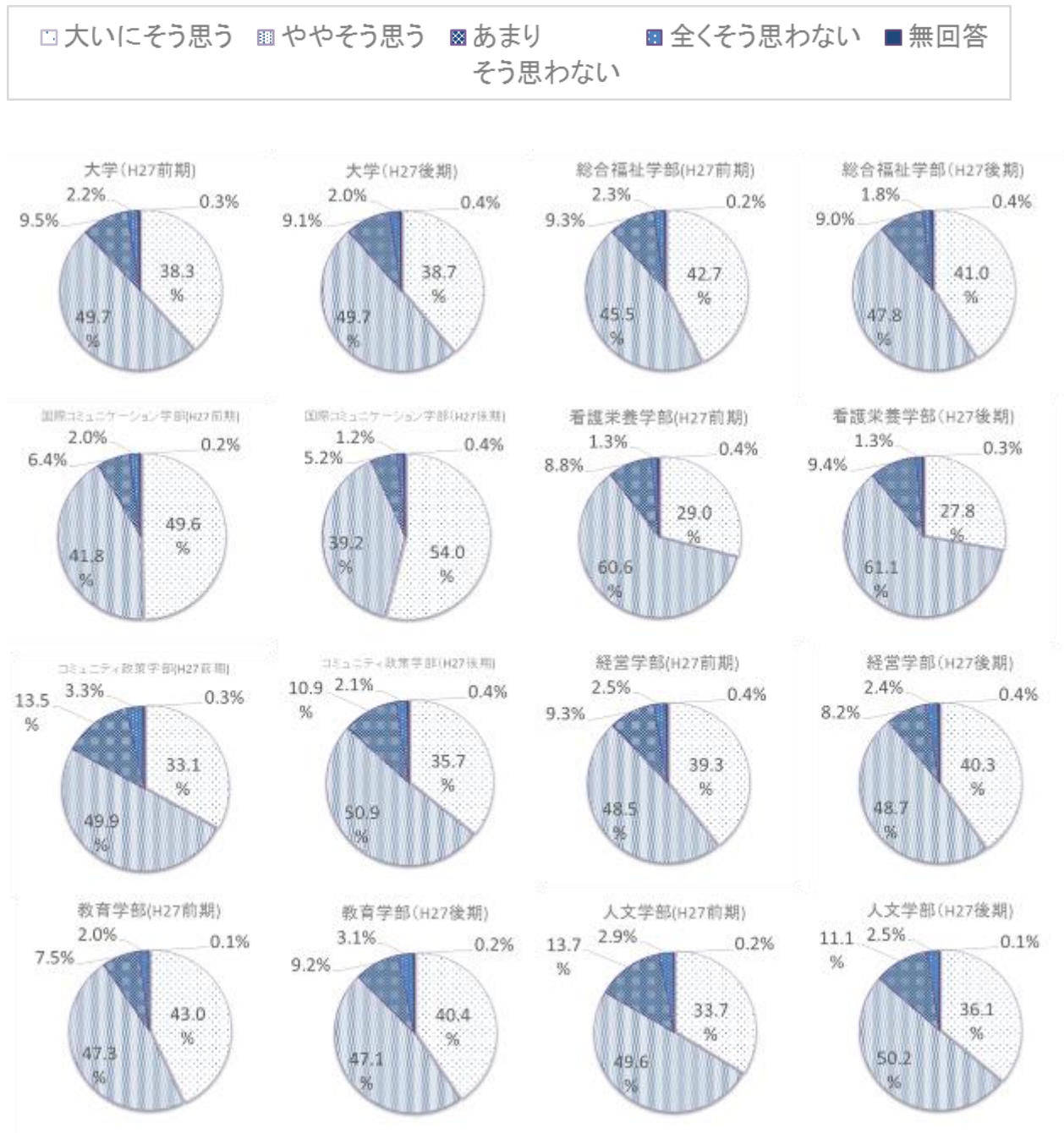


(4) 授業環境について

①Ⅳ－1「受講態度(私語、携帯電話の使用等への注意等)に適切な対応がなされ、学習するのにふさわしい環境が保たれていましたか」

授業内で私語や携帯電話の注意等の対応は、大学全体では「大いにそう思う」「ややそう思う」を合わせて前期 87.3%、後期は 90%弱となっていますので、学習するにはふさわしい環境は保たれているようです。(図15)学部別では埼玉キャンパスにある学部は「大いにそう思う」と答えた割合の値は高いようです。

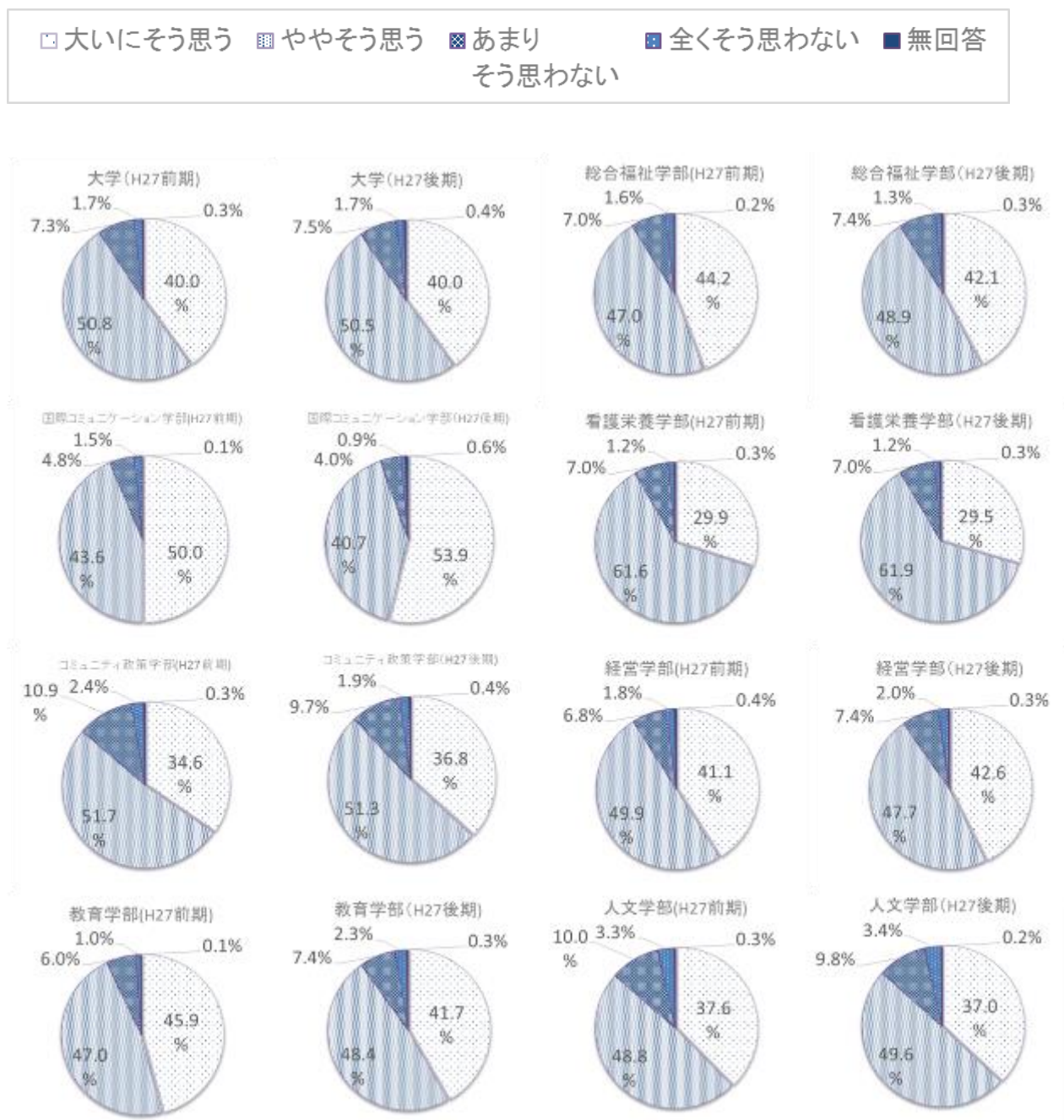
図 15 Ⅳ－1 学習するのにふさわしい環境が保たれていたか



②Ⅳ－2「授業に関する機器・備品等は充実していましたか」

昨年度と同様に授業に関する機器備品は千葉第2キャンパスの看護栄養学部では「大いにそう思う」は大学全体や他学部と比較して低い数値となっています。(図16)しかし、同一キャンパスである千葉キャンパスの総合福祉学部とコミュニティ政策学部、では「大いにそう思う」や「あまりそう思わない」の数値が学部によって大きく異なる為、各科目の使用教室と授業アンケートの分析・検討や各建物や教室の調査をしていく必要があります。

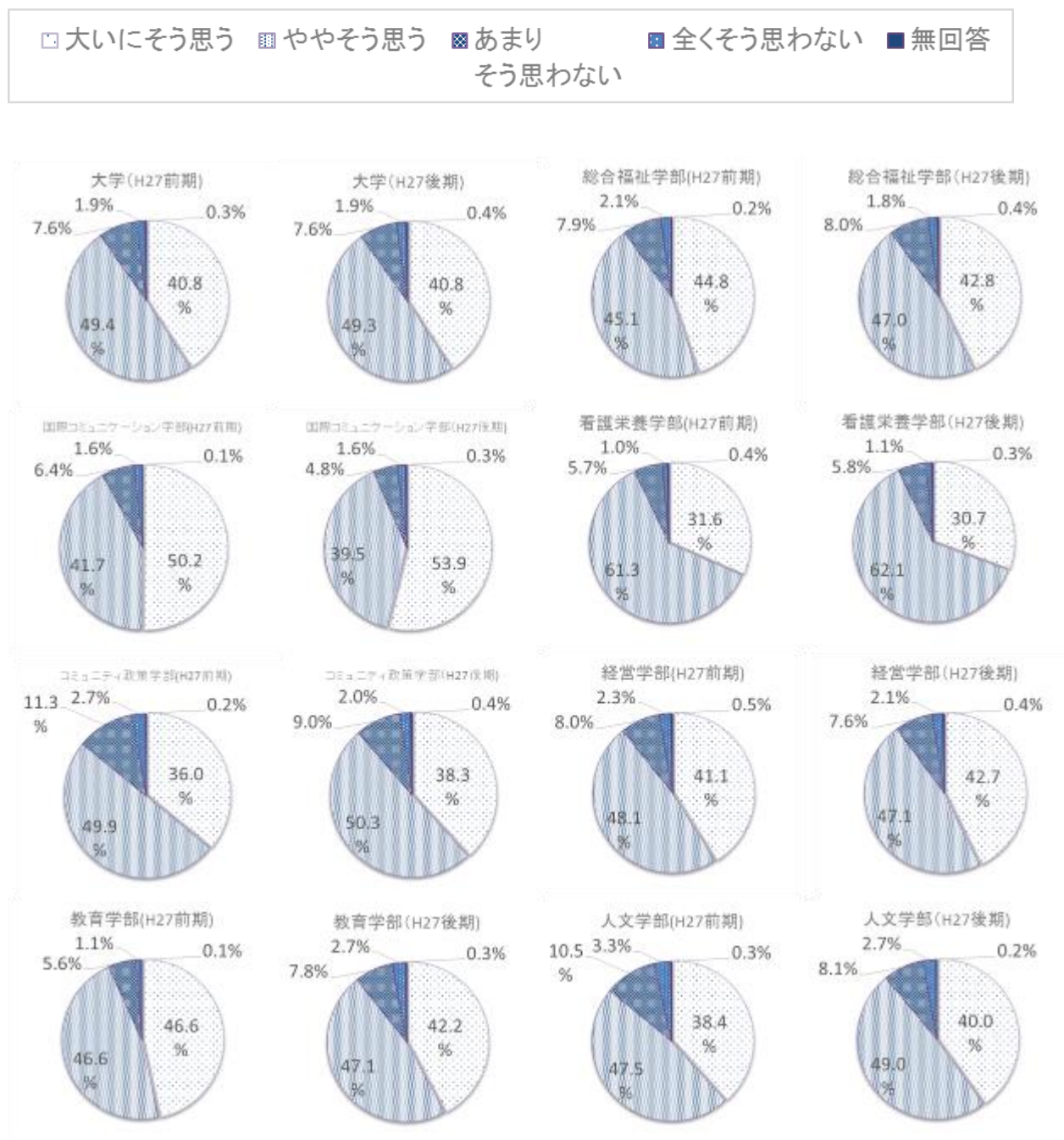
図16 Ⅳ－2 授業に関する機器・備品の充実



③Ⅳ－3「この授業を受けるにあたり、履修人数は適切でしたか」

履修人数の適切さについて、大学全体や各学部の前学期・後学期とも「大いにそう思う」「ややそう思う」を合わせた数値は90%前後であり、学生の履修人数は適切と感じている人は多く見られます。今後は、授業人数規模や満足度、教室、双方向型の授業などと分析を行う検討をしていきます。

図 17 Ⅳ－3 履修人数は適切か



第二部

- 授業満足度等を規定する要因に関する探索的分析 -

5. 第二部の概要

(1) 調査結果の概要

分析の詳細は次節以降に記しますが、ここでは分析の結果分かったことを簡単に示します。

① 学生の満足度等が高い授業とは？ ～授業単位データを用いた分析～

●「授業満足度」は、次の条件において高まる。

- ・履修者に高学年が多い
- ・初回に授業説明がある
- ・授業内で事前事後の学習の指示がある
- ・教員の話し方等が分かりやすい
- ・双方向型の授業が効果的に行なわれている
- ・受講態度に適切な対応がなされている
- ・学習するのにふさわしい環境が保たれている
- ・内容が難しくない場合

⇒「授業満足度」にもっとも大きく影響するのは「話し方や説明の仕方の分かりやすさ」、
次いで「受講態度への適切な対応」である。

●「知的刺激（授業を通じて知的好奇心が刺激される度合い）」は、次の条件において高まる。

- ・履修者に高学年が多い
- ・シラバスに沿って双方向型の授業が効果的に行なわれている
- ・教員の話し方等が分かりやすい
- ・受講態度に適切な対応がなされて学習する
- ・ふさわしい環境が保たれている場合に高まる。

⇒「知的刺激」にもっとも大きく影響するのは「話し方や説明の仕方の分かりやすさ」で
ある。

●「予習・復習時間」は、次の条件において長くなる。

- ・履修者に高学年が多い
- ・人数が 20 人未満の授業
- ・内容が難しく、授業内で事前事後学習等の具体的な指示がある
- ・双方向型の授業が効果的に行なわれている

⇒「予習・復習時間」にもっとも大きく影響するのは「内容の難易度」および「事前事後
課題の指示」である。

【設問項目間の影響】

- 「授業満足度」と「知的刺激」では、「話し方や説明の仕方の分かりやすさ」や「受講態度への適切な対応」が大きく影響する。
- 「予習復習時間」には「難易度」「事前事後課題の指示」が大きく影響する。
- 「授業満足度」「知的刺激」「予習復習時間」のいずれに対しても影響するのは、「双方向型の授業」「学年」である。

【授業の履修者数による違い】

- 履修人数の多い授業と少ない授業では、「授業満足度」「知的刺激」を高める要因が若干異なる。
 - ⇒「話し方や説明の仕方がわかりやすさ」は、とくに履修人数が 100 人以上と多い授業で非常に効果が高い(100 人以上の授業では、「話し方等分かりやすさ」と「シラバス忠実度」以外の要因はあまり影響しない)。
 - ⇒履修人数が 99 人以下の授業では、受講態度に適切な対応がなされ学習にふさわしい環境が保たれていること、およびが双方向型の授業が効果的に行なわれていること(「双方向型授業評価」)が効く。「双方向型授業」は、20 人～49 人の授業においてとくに効果が高い。
 - ⇒事前事後学習等の具体的な指示があることや「機器・備品等の充実度」は、履修人数が少ない授業満足度等を高めるうえで効果がある。

② 授業方法は授業満足度等はどう影響するか？ ～個別データを用いた分析～

- 「授業満足度」「知的刺激」を高めるのにもっとも効果がある授業方法は「話し方や説明の仕方の分かりやすさ」であり、次いで、教材が授業の理解に役立つこと(「教材役立ち度」)、「双方向型授業評価」である。
- 「予習復習時間」には「双方向型授業評価」が効果的である。「教材役立ち度」には効果は見られなかった。
- 授業方法には相乗効果がある。「話し方や説明の仕方の分かりやすさ」と「双方向型授業評価」どちらか一方だけではなく、両方の評価が高いと、「授業満足度」「知的刺激」は大きく高まり、「予習復習時間」も長くなる。
 - ⇒授業方法の相乗効果は、授業の履修人数ごとに分けたデータでも確認された。

(2)分析の目的

第二部では、学生向けアンケートの結果および授業の実施場所や履修人数等の情報を用いて、以下の2点を探索的に分析します。

① 学生の評価が高く、学習行動を促進しているのはどのような授業か

(「2. 学生の満足度等が高い授業とは？」)

- 目的変数は以下の3変数。昨年度同様、これらに影響を及ぼす要因を、重回帰分析等、多変量解析の手法を用いて分析する。

◇授業満足度(QⅢ3, 選択肢は4水準)

「この授業を受講して、満足していますか」

◇知的好奇心(QⅢ1, 選択肢は4水準)

「この授業を通じて知的好奇心が刺激されましたか」

◇予習復習時間(QⅠ8, 選択肢は5水準)

「あなたが、この授業1回(90分)のために予習・復習時間に費やした時間は平均()分であった」

② 授業の方法に関する学生の評価は、授業満足度等にどのように関連しているのか

(「3. 授業方法は授業満足度等はどう影響するか？」)

- 説明変数は「授業の方法に関する評価」で、以下の3変数。目的変数は①と同様。

「授業の方法に関する評価」は授業満足度や知的好奇心、予習復習時間にどう影響するかを分析する。

◇双方向型授業評価(QⅡ1, 選択肢は4水準)

「双方向型の授業(発表、討論、協同学習、調べ学習等)は、効果的に行われましたか」

◇教材役立ち度(QⅡ2, 選択肢は4水準)

「教材(教科書、板書、プリント、スライド、ビデオ等)は、授業の理解に役立ちましたか」

◇話し方等分かりやすさ(QⅡ3, 選択肢は4水準)

「この授業では、話し方や説明の仕方がわかりやすかったですか」

(3) 分析データについて ～個別データと授業単位で集計したデータ～

分析には、主に以下の2つのデータを用います。

- 個別データ(n=60,374)

: 学生 60,374 人分の回答データ(第一部と同じ)。

: 「① 学生の評価が高く、学習行動を促進しているのはどのような授業か」の分析に使用する。

- 授業単位データ(n=2,156)

: 個別データの授業ごとの平均点(授業数は 2,156)。平均点は、たとえば選択肢が「大いにそう思う～全くそう思わない」の 4 段階の場合、「大いにそう思う=4 点」～「全くそう思わない=1 点」とみなして計算する。

: 「② 授業の方法に関する学生の評価は、授業満足度等にどのように関連しているのか」の分析に使用する。

両データの平均点と標準偏差を比較すると、授業単位データの方が個別データより平均点が高く、データのばらつきが小さい(標準偏差の値が小さい)ことが分かります(表 1)。授業単位データでは大人数授業の個別データが圧縮されるので、履修人数が多い授業で、両データの違いがとくに大きくなります。授業単位データの方が、平均点が高いのは、大人数授業の方が総じて評価が低い(後述)ことから説明することができます。図 1 上は、両データの平均点の差が大きい順に並べたグラフ、図 1 下は両データの平均点と履修人数との相関係数を同じ順に並べたグラフですが、両データの差が大きい方が、授業単位データの履修人数との相関係数が大きい傾向があるのが分かります。

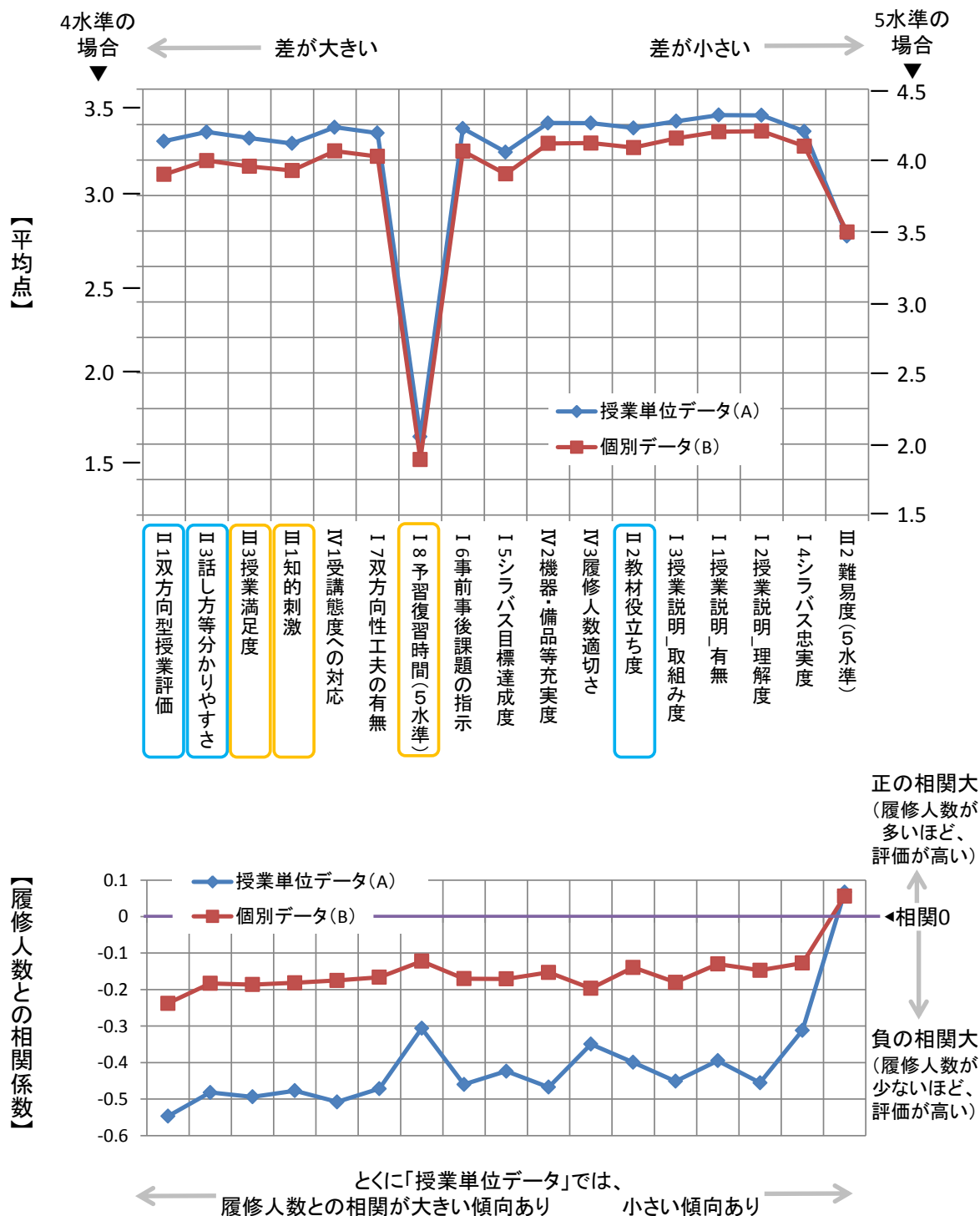
表 1 個別データと授業単位データとの比較(平均点、標準偏差)

アンケート調査項目	平均点			標準偏差			
	授業単位 データ(A)	個別データ (B)	平均値の差 (A-B)	授業単位 データ(A)	個別データ (B)	標準偏差 の差 (A-B)	
I 1授業説明_有無	3.45	3.36	0.09	0.30	0.64	-0.34	
I 2授業説明_理解度	3.45	3.36	0.09	0.26	0.57	-0.31	
I 3授業説明_取組み度	3.42	3.32	0.10	0.27	0.58	-0.31	
I 4シラバス忠実度	3.36	3.28	0.08	0.32	0.66	-0.34	
I 5シラバス目標達成度	3.24	3.12	0.12	0.33	0.68	-0.35	
I 6事前事後課題の指示	3.38	3.25	0.13	0.33	0.71	-0.38	
I 7双方向性工夫の有無	3.35	3.22	0.13	0.34	0.72	-0.38	
● I 8 予習復習時間(5水準)	2.05	1.89	0.16	0.65	1.07	-0.42	
②の 説明変数	II 1双方向型授業評価	3.31	3.12	0.19	0.40	0.78	-0.38
	II 2教材役立ち度	3.38	3.27	0.11	0.34	0.72	-0.38
	II 3話し方等分かりやすさ	3.36	3.20	0.16	0.40	0.78	-0.38
● III 1知的刺激	3.29	3.14	0.15	0.39	0.77	-0.37	
III 2 難易度(5水準)	3.46	3.49	-0.03	0.38	0.79	-0.41	
● III 3授業満足度	3.32	3.16	0.16	0.39	0.76	-0.37	
IV 1受講態度への対応	3.38	3.25	0.13	0.32	0.71	-0.38	
IV 2機器・備品等充実度	3.41	3.29	0.12	0.30	0.68	-0.37	
IV 3履修人数適切さ	3.41	3.30	0.11	0.35	0.69	-0.34	

図1 個別データと授業単位データとの比較(平均点グラフ※、平均点×履修人数※※との相関係数)

※ 平均点グラフ:両データの差が大きい順に並べ替え。下図(履修人数との相関係数)も、この平均点グラフの横軸を共有。

※※「履修人数」:「10人未満」「10人～19人」「20人～49人」「50人～99人」「100人以上」の5項目に順序尺度化したデータ



6. 学生の満足度等が高い授業とは？ ～授業単位データを用いた分析～

(1) 分析の方針と使用データ

① 分析の方針

授業単位データを用い、以下の手順で分析を進めます。

1. 相関分析、単回帰分析等を行い、「授業満足度」「知的好奇心」「予習復習時間」とその他の調査項目および履修人数・学年等の授業属性との関連を中心に、2 つの変数間にどのような関連があるのかを検討する。
2. 1の結果をふまえて、「授業満足度」「知的好奇心」「予習復習時間」をそれぞれ目的変数、その他の調査項目および授業属性を説明変数とした重回帰分析を行い、「授業満足度」等はどのような要因によって規定されているのかを検討する。

② 分析データの作成

分析には、授業単位データだけでなく、その授業の実施場所や時間、回答した学生の学年・性別・所属学部（アンケートに回答欄あり）、履修人数などの授業属性などのデータを使用します。

データ化は、以下のように行いました。

- 学期 「前学期」「後学期」の 2 変数。該当学期を「1」、非該当を「0」として 0-1 データ化。該当数が非常に少ない「集中」「前学期・後学期」は使用していない。
- 曜日 「月」「火」「水」「木」「金」「土」の 6 変数。該当曜日を「1」、非該当を「0」として 0-1 データ化。
- 時限 「1 限」「2 限」「3 限」「4 限」「5 限」「6 限」「7 限」「集中講義」の 8 変数。該当を「1」、非該当を「0」として 0-1 データ化。
- キャンパス 「千葉」「千葉第 2」「埼玉」「東京」の 4 変数。該当を「1」、非該当を「0」として 0-1 データ化。
- 学年 回答した学生の学年の平均値。5,6 年生のデータは不使用（欠測値扱い）。
- 性別 回答した学生のうち、女子が何%かを示した「女子比」。
- 学部 「総合福祉」「国際コミュニケーション」「看護栄養」「コミュニティ政策」「経営」「教育」「人文」「その他」の 8 変数。回答した学生の所属学部の割合を数値化。たとえば、その授業の回答者が全員「総合福祉」であれば、「総合福祉」を「1」、その他の変数をすべて「0」となる。100 人の学生が回答した授業で、「総合福祉」が 20%、「国際コミュニケーション」が 10%、「コミュニティ政策」が 70%なら、「総合福祉」を「0.2」、「国際コミュニケーション」を「0.1」、「コミュニティ政策」を「0.7」とし、その他の変数すべてを「0」となる。
- 履修人数 「10 人未満」「10 人～19 人」「20 人～49 人」「50 人～99 人」「100 人以上」の 5 項目として順序尺度化。ただし、アンケート回答数と履修人数が大きく異なる授業（全 16）は不使用（欠測値扱い）。

なお、授業単位データでは、授業ごとの平均点を計算する前に以下の論理矛盾回答処理を行っています。

- 「授業説明の有無(Q I 1)」で「説明がなかった(1 または 2)」と回答
→「授業説明の理解度(Q I 2)」および「授業説明の取組み度(Q I 3)」を非該当として空欄(欠測値)に
- 「授業説明の理解度(Q I 2)」で「理解できなかった(1 または 2)」と回答
→「授業説明の取組み度(Q I 3)」を非該当として空欄(欠測値)に

(2)2つの項目間の関連

① 相関係数行列の作成

全項目間の関連を俯瞰するため、相関分析を行いました。その結果の相関係数行列を表2に示します。

相関係数とは、2つの変数の関連の強さの程度を表す指標で、 ± 1 の範囲内の値をとります。一方が大きくなるにつれもう一方も大きくなるという正の関連であれば+の値、一方が大きくなるにつれもう一方が小さくなるという負の関連であれば-の値、完全に一致していれば+1、完全に反対であれば-1です。

表1では、数値の大きさを直感的に分かりやすくするために色分けしています。オレンジおよび濃い水色は ± 0.7 以上の高相関、薄いオレンジおよび水色は ± 0.4 以上 0.7 未満、グレーは ± 0.12 未満です。

濃い青色は+1(同じ項目間の相関係数なので完全に一致)です。表2は、濃い青色ラインを境に右上と左下は同じ内容になっています。

表2 授業単位データ等の相関係数行列 1/3

■ =1 高相関 : 0.7以上 : -0.7以下 : 0.4～0.7未満 : -0.4～-0.7 低相関 -0.12～0.12未満		前学期	後学期	日	火	水	木	金	1限	2限	3限	4限	5限	6限	7限	集中講義
学期	前学期	1.00	-1.00	.00	-.01	.01	.01	-.01	.03	.02	.01	.00	-.02	.01	-.14	-.03
(0-1)	後学期	-1.00	1.00	.00	.01	-.01	-.01	.01	-.03	-.02	-.01	.00	.02	-.01	.14	.03
曜日	月	.00	.00	1.00	-.23	-.23	-.19	-.25	-.03	.00	.03	.06	.02	-.09	-.08	-.02
(0-1)	火	-.01	.01	-.23	1.00	-.27	-.23	-.28	.02	-.03	-.04	.00	.02	.07	.05	-.02
	水	.01	-.01	-.23	-.27	1.00	-.23	-.29	.03	.01	-.02	.01	.01	-.03	-.04	-.02
	木	.01	-.01	-.19	-.23	-.23	1.00	-.24	.01	.04	-.03	-.05	-.05	.07	.08	-.01
	金	-.01	.01	-.25	-.28	-.29	-.24	1.00	-.08	-.01	.06	.01	.01	-.02	.01	-.02
時限	1限	.03	-.03	-.03	.02	.03	.01	-.08	1.00	-.22	-.25	-.21	-.16	-.10	-.09	-.03
(0-1)	2限	.02	-.02	.00	-.03	.01	.04	-.01	-.22	1.00	-.31	-.26	-.19	-.12	-.12	-.04
	3限	.01	-.01	.03	-.04	-.02	-.03	.06	-.25	-.31	1.00	-.21	-.18	-.12	-.11	-.04
	4限	.00	.00	.06	.00	.01	-.05	.01	-.21	-.26	-.21	1.00	-.13	-.10	-.09	-.03
	5限	-.02	.02	.02	.02	.01	-.05	.01	-.16	-.19	-.18	-.13	1.00	-.07	-.07	-.02
	6限	.01	-.01	-.09	.07	-.03	.07	-.02	-.10	-.12	-.12	-.10	-.07	1.00	-.04	-.02
	7限	-.14	.14	-.08	.05	-.04	.08	.01	-.09	-.12	-.11	-.09	-.07	-.04	1.00	-.01
	集中講義	-.03	.03	-.02	-.02	-.02	-.01	-.02	-.03	-.04	-.04	-.03	-.02	-.02	-.01	1.00
キャンパス	千葉	-.03	.03	-.04	.09	.01	-.09	.05	-.08	-.02	-.07	-.08	.04	.24	.23	-.06
(0-1)	千葉第二	.06	-.06	-.05	.05	-.07	.01	.06	.05	-.04	.05	-.03	-.01	-.06	-.06	.12
	埼玉	-.01	.01	.06	-.14	.03	.06	-.04	.04	.02	.03	.07	-.03	-.17	-.17	-.01
	東京	.00	.00	.03	.03	-.01	.05	-.09	.03	.05	.02	.06	.00	-.06	-.05	.01
学年	学年平均	-.04	.04	-.06	.03	-.04	.08	-.03	-.11	-.14	-.08	-.03	.06	.25	.31	.07
性別	女子比	.04	-.04	-.01	.05	.00	-.08	.04	.02	.00	-.01	.03	.04	-.07	-.08	.05
学部	1.総合福祉_率	-.03	.03	-.06	.14	.05	-.17	.05	-.06	.01	-.06	-.05	.07	.17	.09	-.05
(割合)	2.国際コミュニケーション_率	-.02	.02	.03	-.07	.04	.02	-.08	.01	-.01	.03	.04	.00	-.09	-.09	.00
	3.看護栄養_率	.07	-.07	-.01	.04	-.06	.00	.04	.05	-.04	.05	-.03	-.01	-.07	-.07	.11
	4.コミュニティ政策_率	-.01	.01	-.02	-.05	-.07	.14	.02	-.05	-.05	-.02	-.06	-.06	.15	.28	-.02
	5.経営_率	.00	.00	.02	-.04	-.01	.06	-.02	.05	.06	.01	-.02	-.06	-.09	-.09	-.02
	6.教育_率	.02	-.02	.04	-.10	.02	.00	.05	-.02	-.04	.00	.09	.02	-.07	-.07	.02
	7.人文_率	.00	.00	.02	.03	-.01	.05	-.09	.03	.05	.02	.06	.00	-.06	-.05	.01
	8.その他_率	.00	.00	.06	-.03	-.02	.04	-.04	.02	.00	-.02	.02	.00	-.02	-.02	-.01
履修人数	履修人数(5水準)	.09	-.09	.09	.04	.02	-.02	-.07	.06	.08	.03	.07	-.02	-.19	-.20	-.02
アンケート	I 1授業説明_有無	-.01	.01	-.03	.01	-.04	.03	.03	-.04	-.03	-.06	-.04	.04	.15	.12	.03
(平均値)	I 2授業説明_理解度	-.04	.04	-.06	-.01	-.03	.04	.04	-.06	-.05	-.07	-.02	.05	.16	.15	.02
	I 3授業説明_取組み度	-.04	.04	-.08	.02	-.03	.05	.01	-.07	-.04	-.06	-.01	.05	.17	.12	.02
	I 4シラバス忠実度	-.01	.01	-.04	.02	-.05	.03	.03	-.04	-.02	-.04	.01	.03	.09	.04	.02
	I 5シラバス目標達成度	-.05	.05	-.05	-.02	-.04	.06	.01	-.08	-.05	-.04	-.02	.04	.14	.13	.02
	I 6事前事後課題の指示	-.04	.04	-.07	.00	-.03	.02	.05	-.03	-.02	-.05	-.04	.02	.15	.10	.02
	I 7双方向性工夫の有無	-.04	.04	-.05	.00	-.03	.02	.04	-.03	-.04	-.07	-.01	.04	.14	.08	.03
	● I 8予習復習時間	-.13	.13	-.05	.02	-.03	.04	-.01	-.05	-.08	-.07	-.05	.05	.23	.23	.07
	II 1双方向型授業評価	-.05	.05	-.08	.02	-.02	-.01	.06	-.07	-.04	-.05	-.05	.07	.16	.13	.03
	II 2教材役立ち度	-.01	.01	-.04	.01	-.02	.02	.03	-.05	-.02	-.04	-.01	.07	.08	.04	.03
	II 3話し方等分かりやすさ	-.04	.04	-.06	.00	-.01	.03	.03	-.06	-.04	-.07	-.02	.06	.13	.13	.03
	● III 1知的刺激	-.04	.04	-.07	.01	-.04	.06	.04	-.09	-.04	-.06	-.04	.08	.17	.15	.01
	III 2難易度	-.01	.01	-.02	.02	.01	-.03	-.02	.02	-.02	-.04	.04	-.01	.05	.02	-.03
	● III 3授業満足度	-.05	.05	-.08	.02	-.03	.04	.03	-.06	-.05	-.07	-.03	.06	.15	.16	.02
	IV 1受講態度への対応	-.04	.04	-.07	.02	-.01	.01	.04	-.04	-.04	-.08	-.04	.06	.17	.11	.02
	IV 2機器・備品等充実度	-.02	.02	-.07	.02	-.02	.02	.03	-.04	-.05	-.09	-.03	.06	.15	.13	.03
	IV 3履修人数適切さ	-.01	.01	-.08	.03	-.03	.00	.06	-.03	-.01	-.08	-.04	.06	.12	.12	.01

表2 授業単位データ等の相関係数行列 2/3

■ =1 高相関 ■ : 0.7以上 ■ : -0.7以下 ■ : 0.4~0.7未満 ■ : -0.4~-0.7 低相関 -0.12~0.12未満		千葉	千葉第二	埼玉	東京	学年平均	女子比	1_総合福祉_率	2_国際コミュニケーション_率	3_看護栄養_率	4_コミュニティ政策_率	5_経営_率	6_教育_率	7_人文_率	8_その他_率	履修人数(5水準)
学期	前学期	-.03	.06	-.01	.00	-.04	.04	-.03	-.02	.07	-.01	.00	.02	.00	.00	.09
(0-1)	後学期	.03	-.06	.01	.00	.04	-.04	.03	.02	-.07	.01	.00	-.02	.00	.00	-.09
曜日	月	-.04	-.05	.06	.03	-.06	-.01	-.06	.03	-.01	-.02	.02	.04	.02	.06	.09
(0-1)	火	.09	.05	-.14	.03	.03	.05	.14	-.07	.04	-.05	-.04	-.10	.03	-.03	.04
	水	.01	-.07	.03	-.01	-.04	.00	.05	.04	-.06	-.07	-.01	.02	-.01	-.02	.02
	木	-.09	.01	.06	.05	.08	-.08	-.17	.02	.00	.14	.06	.00	.05	.04	-.02
	金	.05	.06	-.04	-.09	-.03	.04	.05	-.08	.04	.02	-.02	.05	-.09	-.04	-.07
時限	1限	-.08	.05	.04	.03	-.11	.02	-.06	.01	.05	-.05	.05	-.02	.03	.02	.06
(0-1)	2限	-.02	-.04	.02	.05	-.14	.00	.01	-.01	-.04	-.05	.06	-.04	.05	.00	.08
	3限	-.07	.05	.03	.02	-.08	-.01	-.06	.03	.05	-.02	.01	.00	.02	-.02	.03
	4限	-.08	-.03	.07	.06	-.03	.03	-.05	.04	-.03	-.06	-.02	.09	.06	.02	.07
	5限	.04	-.01	-.03	.00	.06	.04	.07	.00	-.01	-.06	-.06	.02	.00	.00	-.02
	6限	.24	-.06	-.17	-.06	.25	-.07	.17	-.09	-.07	.15	-.09	-.07	-.06	-.02	-.19
	7限	.23	-.06	-.17	-.05	.31	-.08	.09	-.09	-.07	.28	-.09	-.07	-.05	-.02	-.20
	集中講義	-.06	.12	-.01	.01	.07	.05	-.05	.00	.11	-.02	-.02	.02	.01	-.01	-.02
キャンパス	千葉	1.00	-.27	-.73	-.24	.10	-.01	.84	-.37	-.24	.35	-.39	-.30	-.24	-.08	.08
(0-1)	千葉第二	-.27	1.00	-.26	-.08	-.13	.37	-.23	-.13	.98	-.10	-.14	-.10	-.08	-.03	.26
	埼玉	-.73	-.26	1.00	-.22	.10	-.17	-.61	.51	-.28	-.26	.53	.41	-.22	.11	-.27
	東京	-.24	-.08	-.22	1.00	-.25	-.07	-.20	-.11	-.09	-.08	-.12	-.09	1.00	-.03	.08
学年	学年平均	.10	-.13	.10	-.25	1.00	-.12	.07	.41	-.13	.07	-.17	-.12	-.25	.09	-.37
性別	女子比	-.01	.37	-.17	-.07	-.12	1.00	.17	-.12	.38	-.32	-.27	.20	-.07	-.09	.21
学部	1_総合福祉_率	.84	-.23	-.61	-.20	.07	.17	1.00	-.31	-.22	-.20	-.33	-.25	-.20	-.07	.07
(割合)	2_国際コミュニケーション_率	-.37	-.13	.51	-.11	.41	-.12	-.31	1.00	-.14	-.13	-.15	-.13	-.11	.05	-.38
	3_看護栄養_率	-.24	.98	-.28	-.09	-.13	.38	-.22	-.14	1.00	-.10	-.15	-.11	-.09	-.03	.30
	4_コミュニティ政策_率	.35	-.10	-.26	-.08	.07	-.32	-.20	-.13	-.10	1.00	-.14	-.11	-.08	-.03	-.02
	5_経営_率	-.39	-.14	.53	-.12	-.17	-.27	-.33	-.15	-.15	-.14	1.00	-.13	-.12	-.04	-.05
	6_教育_率	-.30	-.10	.41	-.09	-.12	.20	-.25	-.13	-.11	-.11	-.13	1.00	-.09	-.03	.05
	7_人文_率	-.24	-.08	-.22	1.00	-.25	-.07	-.20	-.11	-.09	-.08	-.12	-.09	1.00	-.03	.08
	8_その他_率	-.08	-.03	.11	-.03	.09	-.09	-.07	.05	-.03	-.03	-.04	-.03	-.03	1.00	-.04
履修人数	履修人数(5水準)	.08	.26	-.27	.08	-.37	.21	.07	-.38	.30	-.02	-.05	.05	.08	-.04	1.00
アンケート	I 1授業説明_有無	.03	-.18	.10	-.05	.20	-.09	.07	.12	-.19	-.06	-.02	.03	-.05	.08	-.40
(平均値)	I 2授業説明_理解度	-.04	-.22	.21	-.09	.26	-.12	.01	.20	-.23	-.06	.01	.08	-.09	.06	-.46
	I 3授業説明_取組み度	-.06	-.19	.22	-.10	.22	-.11	-.02	.17	-.21	-.04	.04	.12	-.10	.03	-.45
	I 4シラバス忠実度	-.05	-.12	.16	-.08	.13	-.06	-.01	.10	-.13	-.06	.04	.09	-.09	.02	-.31
	I 5シラバス目標達成度	-.13	-.15	.28	-.12	.21	-.08	-.11	.18	-.17	-.02	.09	.13	-.12	-.01	-.42
	I 6事前事後課題の指示	-.02	-.20	.16	-.05	.18	-.10	.02	.15	-.22	-.06	.02	.06	-.05	.03	-.46
	I 7双方向性工夫の有無	-.07	-.17	.20	-.07	.22	-.09	-.01	.21	-.19	-.09	.02	.05	-.07	.04	-.47
	● I 8予習復習時間	.04	-.10	.05	-.06	.23	-.15	.02	.03	-.11	.04	.03	-.01	-.06	.04	-.31
	II 1双方向型授業評価	-.03	-.16	.16	-.08	.27	-.05	.03	.17	-.18	-.09	.01	.06	-.08	-.02	-.55
	II 2教材役立ち度	-.01	-.17	.13	-.05	.18	-.06	.05	.18	-.18	-.08	-.03	.03	-.05	.04	-.40
	II 3話し方等分かりやすさ	-.03	-.19	.18	-.07	.24	-.10	.01	.21	-.21	-.06	.01	.02	-.07	.05	-.48
	● III 1知的刺激	-.02	-.16	.16	-.08	.29	-.07	.03	.19	-.18	-.07	-.03	.05	-.08	.09	-.48
	III 2難易度	.06	-.02	-.02	-.05	-.01	-.12	.03	-.02	-.01	.05	.06	-.09	-.05	.01	.06
	● III 3授業満足度	-.03	-.15	.15	-.07	.26	-.09	.02	.21	-.17	-.06	-.03	.04	-.07	.06	-.49
	IV 1受講態度への対応	.00	-.16	.14	-.10	.25	-.05	.06	.20	-.17	-.10	-.04	.04	-.10	.08	-.51
	IV 2機器・備品等充実度	.01	-.16	.14	-.12	.22	-.07	.06	.18	-.17	-.07	-.04	.05	-.12	.03	-.47
	IV 3履修人数適切さ	.05	-.12	.04	-.05	.11	.01	.10	.04	-.13	-.07	-.03	.05	-.06	.01	-.35

表2 授業単位データ等の相関係数行列 3/3

■ =1 高相関 ■ : 0.7以上 ■ : -0.7以下 ■ : 0.4~0.7未満 ■ : -0.4~-0.7 低相関 ■ -0.12~0.12未満		I 1授業説明_有無	I 2授業説明_理解度	I 3授業説明_取組み度	I 4シラバス忠実度	I 5シラバス目標達成度	I 6事前事後課題の指示	I 7双方向性工夫の有無	I 8予習復習時間	II 1双方向型授業評価	II 2教材役立ち度	II 3話し方等分かりやすさ	III 1知的刺激	III 2難易度	III 3授業満足度	IV 1受講態度への対応	IV 2機器・備品等充実度	IV 3履修人数適切さ
学期	前学期	-.01	-.04	-.04	-.01	-.05	-.04	-.04	-.13	-.05	-.01	-.04	-.04	-.01	-.05	-.04	-.02	-.01
(0-1)	後学期	.01	.04	.04	.01	.05	.04	.04	.13	.05	.01	.04	.04	.01	.05	.04	.02	.01
曜日	月	-.03	-.06	-.08	-.04	-.05	-.07	-.05	-.05	-.08	-.04	-.06	-.07	-.02	-.08	-.07	-.07	-.08
(0-1)	火	.01	-.01	.02	.02	-.02	.00	.00	.02	.02	.01	.00	.01	.02	.02	.02	.02	.03
	水	-.04	-.03	-.03	-.05	-.04	-.03	-.03	-.03	-.02	-.02	-.01	-.04	.01	-.03	-.01	-.02	-.03
	木	.03	.04	.05	.03	.06	.02	.02	.04	-.01	.02	.03	.06	-.03	.04	.01	.02	.00
	金	.03	.04	.01	.03	.01	.05	.04	-.01	.06	.03	.03	.04	-.02	.03	.04	.03	.06
時限	1限	-.04	-.06	-.07	-.04	-.08	-.03	-.03	-.05	-.07	-.05	-.06	-.09	.02	-.06	-.04	-.04	-.03
(0-1)	2限	-.03	-.05	-.04	-.02	-.05	-.02	-.04	-.08	-.04	-.02	-.04	-.04	-.02	-.05	-.04	-.05	-.01
	3限	-.06	-.07	-.06	-.04	-.04	-.05	-.07	-.07	-.05	-.04	-.07	-.06	-.04	-.07	-.08	-.09	-.08
	4限	-.04	-.02	-.01	.01	-.02	-.04	-.01	-.05	-.05	-.01	-.02	-.04	.04	-.03	-.04	-.03	-.04
	5限	.04	.05	.05	.03	.04	.02	.04	.05	.07	.07	.06	.08	-.01	.06	.06	.06	.06
	6限	.15	.16	.17	.09	.14	.15	.14	.23	.16	.08	.13	.17	.05	.15	.17	.15	.12
	7限	.12	.15	.12	.04	.13	.10	.08	.23	.13	.04	.13	.15	.02	.16	.11	.13	.12
	集中講義	.03	.02	.02	.02	.02	.02	.03	.07	.03	.03	.03	.01	-.03	.02	.02	.03	.01
キャンパス	千葉	.03	-.04	-.06	-.05	-.13	-.02	-.07	.04	-.03	-.01	-.03	-.02	.06	-.03	.00	.01	.05
(0-1)	千葉第二	-.18	-.22	-.19	-.12	-.15	-.20	-.17	-.10	-.16	-.17	-.19	-.16	-.02	-.15	-.16	-.16	-.12
	埼玉	.10	.21	.22	.16	.28	.16	.20	.05	.16	.13	.18	.16	-.02	.15	.14	.14	.04
	東京	-.05	-.09	-.10	-.08	-.12	-.05	-.07	-.06	-.08	-.05	-.07	-.08	-.05	-.07	-.10	-.12	-.05
学年	学年平均	.20	.26	.22	.13	.21	.18	.22	.23	.27	.18	.24	.29	-.01	.26	.25	.22	.11
性別	女子比	-.09	-.12	-.11	-.06	-.08	-.10	-.09	-.15	-.05	-.06	-.10	-.07	-.12	-.09	-.05	-.07	.01
学部	1_総合福祉_率	.07	.01	-.02	-.01	-.11	.02	-.01	.02	.03	.05	.01	.03	.03	.02	.06	.06	.10
(割合)	2_国際コミュニケーション_率	.12	.20	.17	.10	.18	.15	.21	.03	.17	.18	.21	.19	-.02	.21	.20	.18	.04
	3_看護栄養_率	-.19	-.23	-.21	-.13	-.17	-.22	-.19	-.11	-.18	-.18	-.21	-.18	-.01	-.17	-.17	-.17	-.13
	4_コミュニティ政策_率	-.06	-.06	-.04	-.06	-.02	-.06	-.09	.04	-.09	-.08	-.06	-.07	.05	-.06	-.10	-.07	-.07
	5_経営_率	-.02	.01	.04	.04	.09	.02	.02	.03	.01	-.03	.01	-.03	.06	-.03	-.04	-.04	-.03
	6_教育_率	.03	.08	.12	.09	.13	.06	.05	-.01	.06	.03	.02	.05	-.09	.04	.04	.05	.05
	7_人文_率	-.05	-.09	-.10	-.09	-.12	-.05	-.07	-.06	-.08	-.05	-.07	-.08	-.05	-.07	-.10	-.12	-.06
	8_その他_率	.08	.06	.03	.02	-.01	.03	.04	.04	-.02	.04	.05	.09	.01	.06	.08	.03	.01
履修人数	履修人数(5水準)	-.40	-.46	-.45	-.31	-.42	-.46	-.47	-.31	-.55	-.40	-.48	-.48	.06	-.49	-.51	-.47	-.35
アンケート	I 1授業説明_有無	1.00	.83	.68	.79	.72	.80	.80	.32	.72	.78	.79	.76	-.11	.78	.78	.78	.61
(平均値)	I 2授業説明_理解度	.83	1.00	.77	.74	.77	.76	.77	.32	.71	.73	.77	.75	-.18	.77	.74	.74	.58
	I 3授業説明_取組み度	.68	.77	1.00	.67	.74	.71	.72	.36	.71	.65	.68	.72	-.08	.72	.69	.69	.57
	I 4シラバス忠実度	.79	.74	.67	1.00	.79	.77	.75	.25	.64	.72	.70	.68	-.15	.69	.68	.72	.56
	I 5シラバス目標達成度	.72	.77	.74	.79	1.00	.78	.79	.32	.72	.71	.76	.75	-.20	.75	.67	.71	.59
	I 6事前事後課題の指示	.80	.76	.71	.77	.78	1.00	.88	.37	.77	.77	.80	.75	-.11	.79	.75	.78	.62
	I 7双方向性工夫の有無	.80	.77	.72	.75	.79	.88	1.00	.34	.80	.80	.82	.77	-.11	.81	.77	.79	.63
	● I 8予習復習時間	.32	.32	.36	.25	.32	.37	.34	1.00	.35	.23	.29	.34	.29	.32	.33	.32	.25
	II 1双方向型授業評価	.72	.71	.71	.64	.72	.77	.80	.35	1.00	.76	.81	.77	-.13	.78	.76	.74	.63
	II 2教材役立ち度	.78	.73	.65	.72	.71	.77	.80	.23	.76	1.00	.86	.79	-.14	.81	.77	.79	.62
	II 3話し方等分かりやすさ	.79	.77	.68	.70	.76	.80	.82	.29	.81	.86	1.00	.86	-.19	.89	.79	.81	.63
	● III 1知的刺激	.76	.75	.72	.68	.75	.75	.77	.34	.77	.79	.86	1.00	-.15	.91	.79	.79	.65
	III 2難易度	-.11	-.18	-.08	-.15	-.20	-.11	-.11	.29	-.13	-.14	-.19	-.15	1.00	-.18	-.06	-.09	-.12
	● III 3授業満足度	.78	.77	.72	.69	.75	.79	.81	.32	.78	.81	.89	.91	-.18	1.00	.81	.82	.67
	IV 1受講態度への対応	.78	.74	.69	.68	.67	.75	.77	.33	.76	.77	.79	.79	-.06	.81	1.00	.86	.69
	IV 2機器・備品等充実度	.78	.74	.69	.72	.71	.78	.79	.32	.74	.79	.81	.79	-.09	.82	.86	1.00	.71
	IV 3履修人数適切さ	.61	.58	.57	.56	.59	.62	.63	.25	.63	.62	.63	.65	-.12	.67	.69	.71	1.00

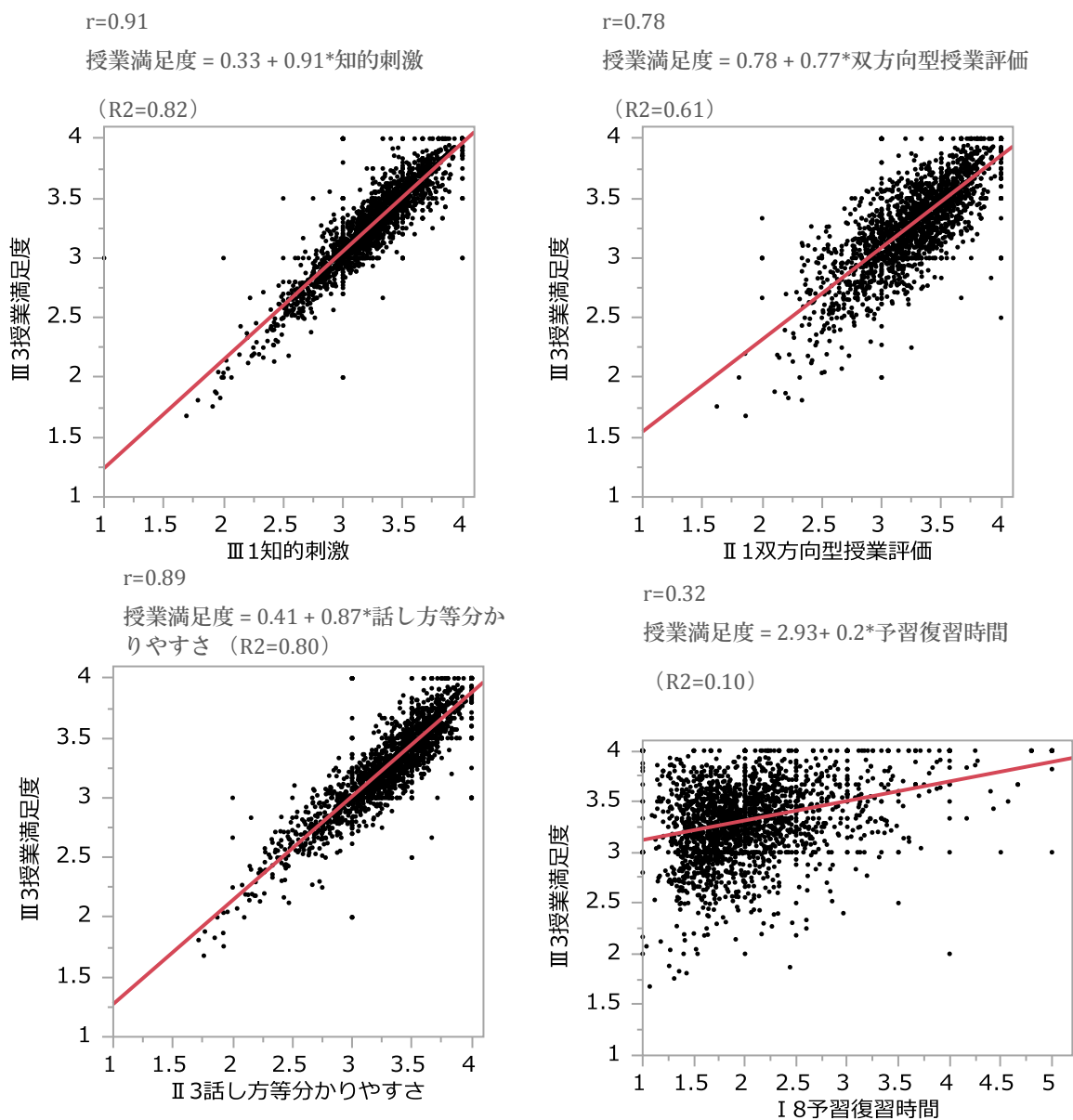
② 授業単位データ間の関連

授業単位データ間の相関係数行列は表 2-3/3 の下側です。この表からわかる通り、「難易度 (QⅡ2)」を除くすべての項目間に正の高い相関がありました。「授業満足度」との関連については、たとえば以下のようなことがいえます。

- 知的好奇心が刺激される授業は、満足度が高い授業である(図 2 左上)。
- 双方向型の授業は、満足度が高い授業である(図 2 右上)。
- 話し方等が分かりやすい授業は、満足度が高い授業である(図 2 左下)。

なお、「予習復習時間」は、他の調査項目に比べると、どの調査項目とも関連はそう高くはないという結果でした(図 2 右下)。

図2 「授業満足度」と「知的刺激」「双方向型授業評価(QⅡ1)」「話し方等分かりやすさ(QⅡ3)」「予習復習時間(QⅠ8)」との関連



「難易度(QⅢ2)」については、「予習復習時間」を除き、すべて項目との間に負の相関がありました。相関がもっとも高いのは「予習復習時間」の $r=0.29$ 、次いで「シラバス目標達成度(QⅠ5)」($r=-0.20$)、「話し方等分かりやすさ(QⅡ3)」($r=-0.19$)、「授業満足度」と「授業説明理解度(QⅠ2)」(両者とも $r=0.18$)でした。つまり、以下のような傾向があることが示唆されます。

- 難易度が高い授業の方が、授業のための予習・復習の時間が長い。
- 難易度が高い授業の方が、シラバスに記載された到達目標を達成できない。
- 話し方等が分かりやすくない授業では、難易度が高いと感じられる。
- 難易度が高い授業の方が、満足度等が低い。

③ 授業単位データとその他の項目との関連

【履修人数】

授業単位データとの相関係数がもっとも高かったのは「履修人数」でした。

ほとんど関連がなかった「難易度(QⅢ2)」を除き、すべての相関係数はマイナスとなりました。つまり、「履修人数が少ない授業ほど評価等が高い」といえます。

図3は、授業単位データの平均値を、履修人数「10人未満」「10人～19人」「20人～49人」「50人～99人」「100人以上」に分けて示したものです。「難易度(QⅢ2)」および「履修人数の適切さ(QⅣ3)」を除くすべての項目で、履修人数が少ない方がアンケート調査結果の平均値が高く、履修人数50～99人と100人以上についてはほぼ差がないことが分かります。

なお、「履修人数の適切さ(QⅣ3)」でもっとも平均値が高いのは「10人未満」ではなく、「10～19人」でした。これらのことから、履修人数は、単純な人数の差というだけではなく、講義、演習・実習等による授業の質的な違いも大きいといえるでしょう。

【学年】

「学年平均」も、授業単位データとの相関係数が比較的高かった項目です。

相関係数が非常に小さい「難易度(QⅢ2)」を除き、すべての項目間の相関係数はプラスでした。つまり、「高学年の回答者割合が高い授業ほど評価等が高い傾向がある」といえます。

図4に示したのは、「学年」と、「授業満足度」「知的刺激」「予習復習時間」「授業説明_理解度(QⅠ2)」「授業説明_取組み度(QⅠ3)」との関連です。いずれも、学年平均値が高いほど平均点が高いという傾向があることが分かります。

なお、「学年」と「履修人数」との間には負の関連があります($r=-0.37$)。学年が高くなるにしたがって、演習等の割合が増え、履修人数が減る傾向があるのです。しかし、図5をみると、履修人数「10人未満」「10人～19人」「20人～49人」まではその通りですが、「50人～99人」は「20人～49人」より学年平均値が高くなっています。このことから、「高学年の回答者が多い授業ほど評価等が高いのは、単に高学年ほど履修人数が少ないからではない」ことが推測されます。

図3 履修人数によるアンケート調査結果の授業ごとの平均値の違い
(アンケート回答数と履修人数が大きく異なる 16 授業を省く)

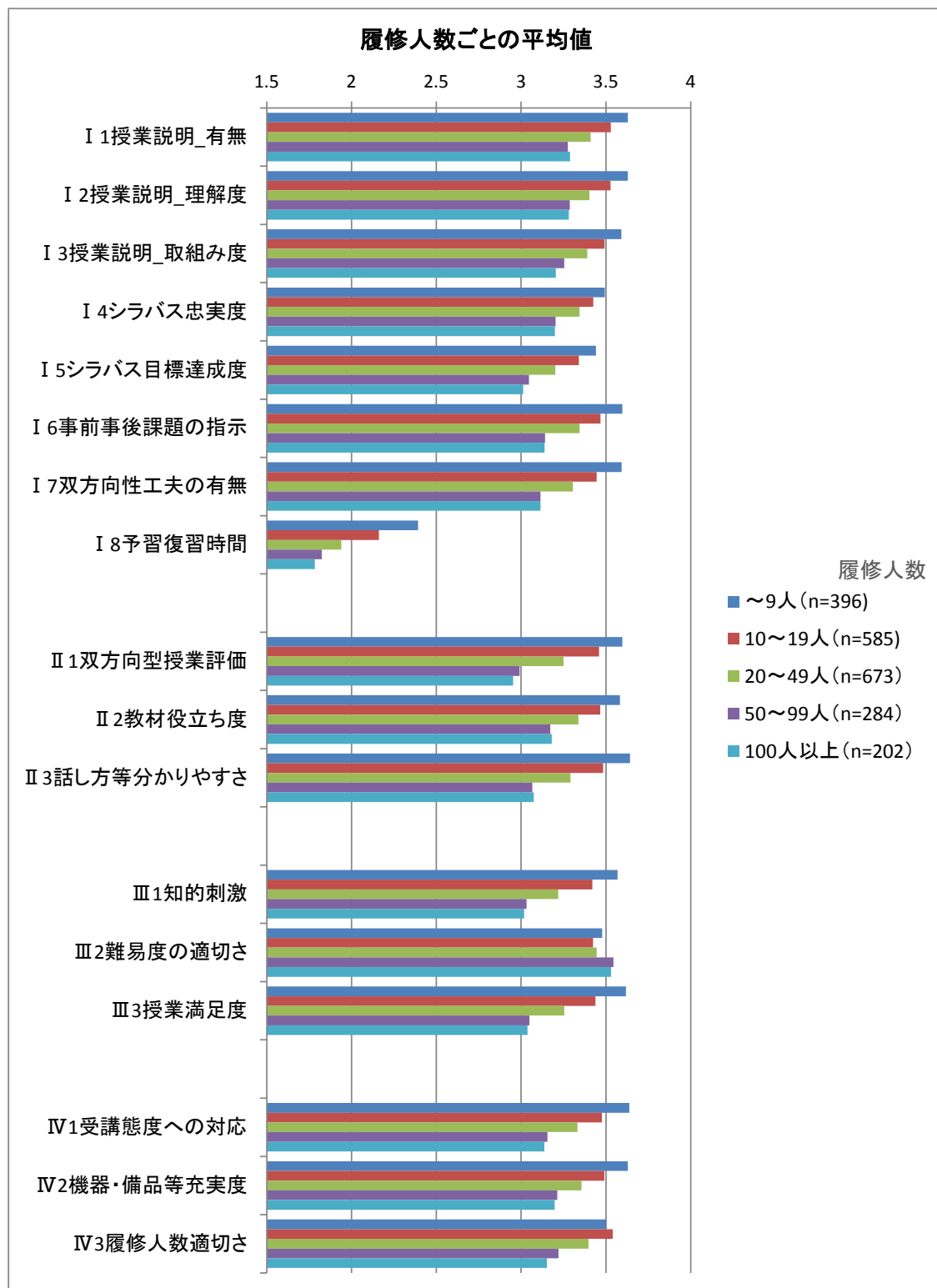


図4 「学年」と、「授業満足度」「知的刺激」「予習復習時間」「授業説明_理解度」「授業説明_取組み度」
との関連(値は授業ごとの平均値)

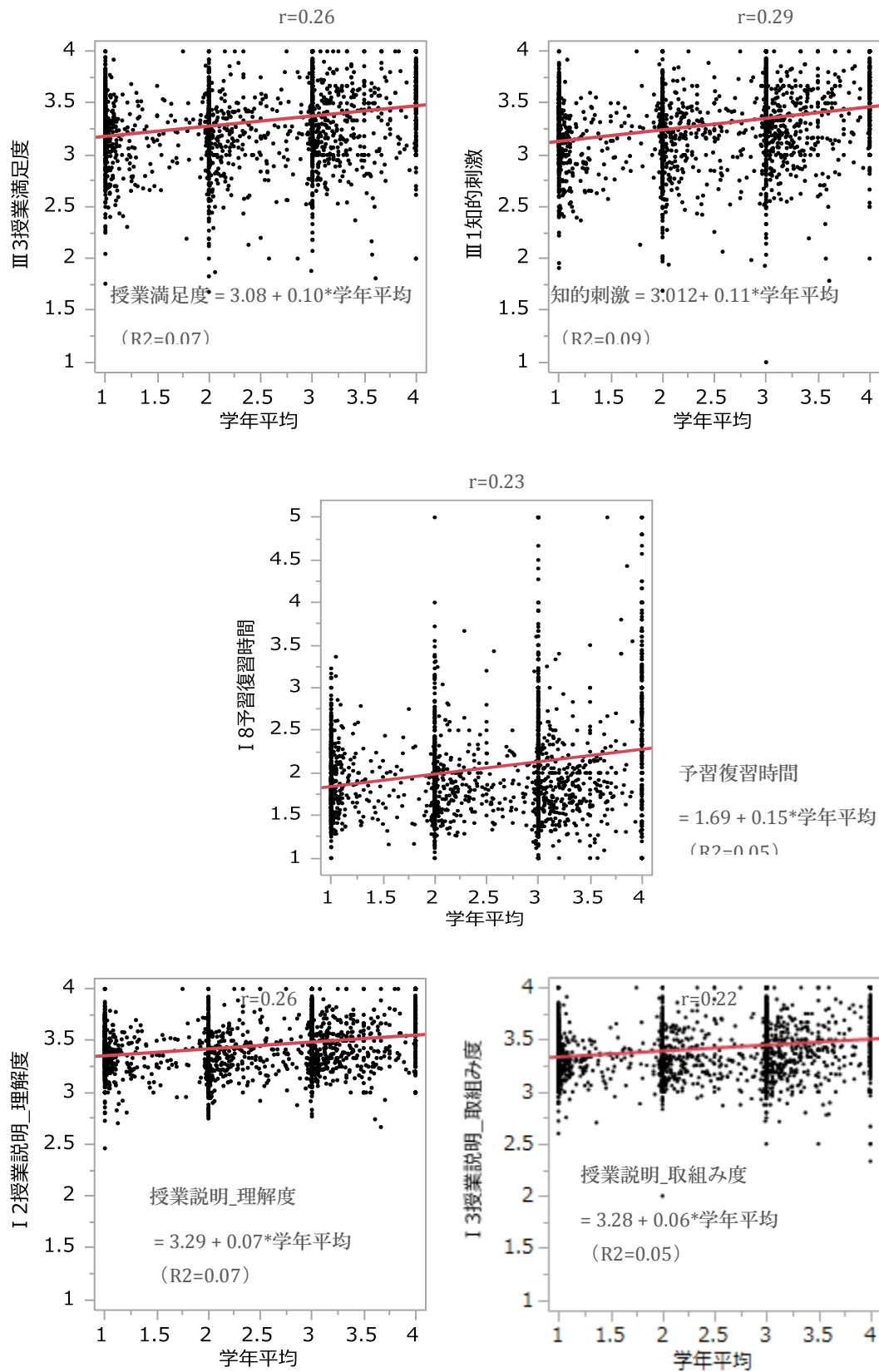
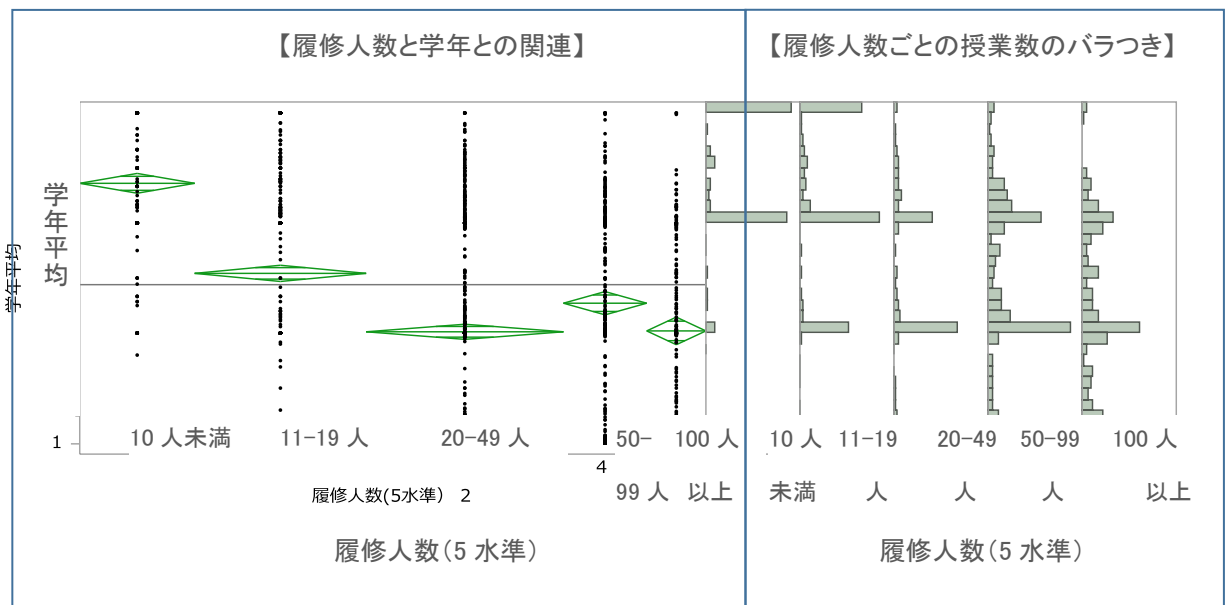


図5 「履修人数(5水準)」と「学年平均(回答した学生の学年の平均値)」との関連



※ 左右の図は縦軸を共有。左図: 菱形は各履修人数の平均値(中央の線)と信頼区間を示す。横軸方向の間隔は各履修人数の授業数を反映している(「50-99人」「100人以上」の授業数は少ない)。右図: ヒストグラム(横棒グラフ)。棒の長さが各履修人数の授業数(度数)を示す。

【その他】

この他、表2の相関係数行列からは、以下のような傾向を読み取ることができます。

- 学部 「国際コミュニケーション」の学生が多い授業は評価等が高め、「看護栄養」は低め。
- キャンパス 「埼玉」の授業は評価等が若干高め、「千葉第二」は若干低め。
- 時限 「6限」「7限」の授業は評価等が若干高めで、早い時間の授業は低い(「1限」～「4限」の授業の相関係数はマイナス)。
- 学期 「前期」より「後期」の授業の方が評価等は高め。
- 性別 「女子比」が低い方が、評価等が高め。難易度が高く、予習復習時間が長い傾向あり。

ただし、たとえばキャンパスであれば、評価が高めの「埼玉」は履修人数が少ない授業が多く、「千葉第二」は履修人数が多い授業が多いなどの関連もあり、疑似相関も疑われます。

(3) 複数項目間の関連(重回帰分析)

① 重回帰分析の方針

「授業満足度」、「知的刺激」、および「予習復習時間」を規定する要因を探るため、これらを各々目的変数とし、その他の調査項目および履修人数等を説明変数とした重回帰分析を実施します。

重回帰分析の精度はどのような説明変数を用いるかによって決まります。重回帰分析では、説明変数として互いに相関が高い変数が取り入れられていると偏回帰係数が統計的に不安定になるため(多重共線性の問題)、説明変数としては互いに相関が低いものを取り入れるべきであるといわれます。しかし、今回用いる調査項目データは互いに相関が高いものが多いのが特徴です。そこで、ここでは以下の方針で重回帰分析を行うこととしました。

【重回帰分析に取り入れる説明変数】

やみくもにすべての調査項目を説明変数として取り入れるのではなく、調査項目各々の意味を考えて最初から変数を絞ります。

今回の調査項目は、「その授業がどうであったかという事実を評価する項目(例:授業はシラバスに沿って行われたか)」と「その授業において自分がどうであったかを評価する項目(例:あなたはシラバスにある到達目標を達成できたか)」に大別することができ、前者のボリュームが大きくなっています。そこで、説明変数として重回帰分析に取り入れるのは、より原因側の変数である前者に絞ることとします。さらに、意味的に重複する項目については一つに絞ります。

これらに、目的変数と相関が高かった「履修人数」「学年」「キャンパス」を加えて説明変数とします。ここで「学部」を加えないのは、「キャンパス」と相関が非常に高いペアがあるためです。なお、「履修人数」は単純な人数の差ではなく、講義、演習・実習等による授業の質的な違いであるとも考えられるので、量的変数ではなく順序尺度として扱います。

以上をふまえると、分析に取り入れる説明変数は次のようになります。

- キャンパス(「千葉」「千葉第二」「埼玉」「東京」の4変数)
- 学年
- 履修人数(5水準の順序尺度として)
- I1 授業説明_有無
- I4 シラバス忠実度
- I6 事前事後課題の指示
- II1 双方向型授業評価
- II2 教材役立ち度
- II3 話し方等分かりやすさ
- III2 難易度
- IV1 受講態度への対応
- IV2 機器・備品等充実度

【重回帰分析の方法】

重回帰分析では、一定の基準に基づいて説明変数を取捨選択することができる「ステップワイズ法」を用います。その際、説明変数ごとの VIF (Variance Inflation Factor、分散拡大要因) の値や R2 乗値 (決定係数。モデルのあてはまりの良さ、つまり分析の精度を表す指標) 等を参考にします。VIF は、他の説明変数との関連の強さを表す指標であり、この値が大きいと多重共線性が疑われます。

【どのようなモデルを検討するか】

まず、全授業データ (n=2,095) を用いて重回帰分析を行い、モデルを得ます。

次に、履修人数ごとのデータを用いて同じ分析を行い (ただし説明変数から履修人数は省く)、たとえば「10 人未満」の場合は何が授業満足度を規定するか、「10 人～19 人」の場合はどうか等を検討します。

さらに、学部ごとの違いを検討します。回答者が特定の学部学生である授業のみを抽出し、学部ごとのデータに分けて同じ分析を行うことで、各学部の特徴をみます。

なお、「予習復習時間」については、他の調査項目との相関が低いこと等から、精度が高いモデルを得ることは難しいです。そこで、「予習復習時間」を目的変数とした重回帰分析は全データのみで行い、履修人数および学部ごとのデータを用いた分析では割愛します。

② 全授業データを用いた重回帰モデルの検討

①の方針にしたがって全データを用いて重回帰分析を行いました。

表 3～5 は、全説明変数候補を投入した一次的な結果です。いずれも VIF の値が高い説明変数があり、また解釈が困難な点が含まれています。

表 6～8 は、VIF や R2 乗値、推定値などをみながら、説明変数の取捨選択を繰り返して得られた結果であり、採用した重回帰モデルです。

表3 全説明変数を投入した重回帰モデル (目的変数＝授業満足度)

「授業満足度」を目的変数とした重回帰分析結果					VIF
項	推定値	標準誤差	t値	p値	
切片	-0.1401	0.0584	-2.4	0.0166	
千葉第二	0.0462	0.0124	3.72	0.0002	1.1040
東京	0.0312	0.0140	2.23	0.0262	1.1130
学年平均	0.0118	0.0036	3.23	0.0013	1.2586
履修人数{1&2-3&4&5}	0.0113	0.0041	2.73	0.0063	1.5211
I 1授業説明_有無	0.0622	0.0233	2.67	0.0077	4.1460
I 6事前事後課題の指示	0.0703	0.0209	3.37	0.0008	4.2613
II 1双方向型授業評価	0.0383	0.0163	2.36	0.0186	3.6726
II 2教材役立ち度	0.0434	0.0215	2.02	0.0431	4.7871
II 3話し方等分かりやすさ	0.4867	0.0205	23.7	<.0001	6.1035
III 2難易度	-0.0354	0.0093	-3.83	0.0001	1.0691
IV 1受講態度への対応	0.1592	0.0230	6.93	<.0001	4.8648
IV 2機器・備品等充実度	0.1918	0.0252	7.6	<.0001	5.2351
				R2乗	0.8439
				自由度調整R2乗	0.8430

表4 全説明変数を投入した重回帰モデル（目的変数＝知的刺激）

「知的刺激」を目的変数とした重回帰分析結果					VIF
項	推定値	標準誤差	t値	p値	
切片	-0.2053	0.0495	-4.15	<.0001	
学年平均	0.0265	0.0039	6.73	<.0001	1.0964
I 1授業説明_有無	0.0960	0.0267	3.59	0.0003	4.2022
I 4シラバス忠実度	0.0666	0.0208	3.2	0.0014	2.8874
II 1双方向型授業評価	0.1023	0.0177	5.78	<.0001	3.2894
II 3話し方等分かりやすさ	0.4580	0.0203	22.57	<.0001	4.4615
IV 1受講態度への対応	0.1911	0.0261	7.32	<.0001	4.7880
IV 2機器・備品等充実度	0.1044	0.0287	3.64	0.0003	5.0760
R2乗				0.7894	
自由度調整R2乗				0.7887	

表5 全説明変数を投入した重回帰モデル（目的変数＝予習復習時間）

「予習復習時間」を目的変数とした重回帰分析結果					VIF
項	推定値	標準誤差	t値	p値	
切片	-2.3182	0.1954	-11.86	<.0001	
埼玉	-0.0507	0.0243	-2.08	0.0373	1.0722
学年平均	0.0729	0.0123	5.93	<.0001	1.2042
履修人数[1&2-3&4&5]	0.0626	0.0141	4.44	<.0001	1.4825
I 1授業説明_有無	0.1697	0.0777	2.18	0.0291	3.8791
I 6事前事後課題の指示	0.6179	0.0709	8.71	<.0001	4.1318
II 1双方向型授業評価	0.2669	0.0553	4.82	<.0001	3.5734
II 2教材役立ち度	-0.5486	0.0727	-7.54	<.0001	4.6305
II 3話し方等分かりやすさ	0.1498	0.0694	2.16	0.0309	5.8608
III 2難易度	0.5808	0.0315	18.41	<.0001	1.0455
R2乗				0.3150	
自由度調整R2乗				0.3121	

表6 採用した重回帰モデル（目的変数＝授業満足度）

「授業満足度」を目的変数とした重回帰分析結果					VIF
項	推定値	標準誤差	t値	p値	
切片	-0.0589	0.0544	-1.08	0.2786	
学年平均	0.0107	0.0035	3.1	0.0020	1.0964
I 1授業説明_有無	0.0921	0.0231	3.98	<.0001	3.9838
I 6事前事後課題の指示	0.0949	0.0208	4.57	<.0001	4.1108
II 1双方向型授業評価	0.0517	0.0160	3.23	0.0013	3.5037
II 3話し方等分かりやすさ	0.5317	0.0180	29.48	<.0001	4.5891
III 2難易度	-0.0353	0.0093	-3.81	0.0001	1.0636
IV 1受講態度への対応	0.2611	0.0198	13.15	<.0001	3.5688
R2乗				0.8385	
自由度調整R2乗				0.8380	

表7 採用した重回帰モデル（目的変数＝知的刺激）

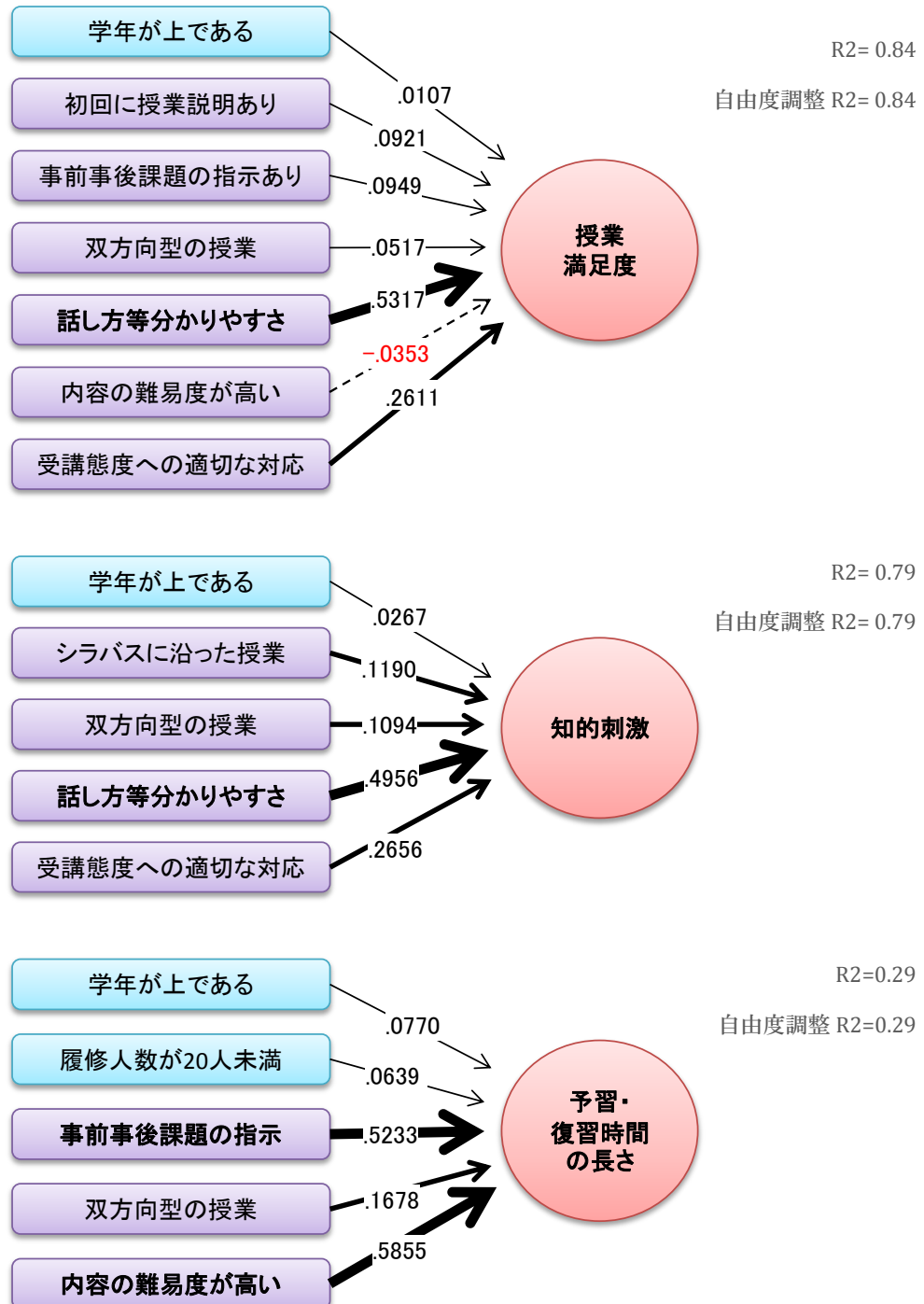
「知的刺激」を目的変数とした重回帰分析結果					VIF
項	推定値	標準誤差	t値	p値	
切片	-0.0962	0.0455	-2.11	0.0346	
学年平均	0.0267	0.0040	6.73	<.0001	1.0959
I 4シラバス忠実度	0.1190	0.0180	6.59	<.0001	2.1478
II 1双方向型授業評価	0.1094	0.0178	6.16	<.0001	3.2717
II 3話し方等分かりやすさ	0.4956	0.0192	25.83	<.0001	3.9399
IV 1受講態度への対応	0.2656	0.0216	12.31	<.0001	3.2244
R2乗				0.7865	
自由度調整R2乗				0.7860	

表8 採用した重回帰モデル（目的変数＝予習復習時間）

「予習復習時間」を目的変数とした重回帰分析結果					VIF
項	推定値	標準誤差	t値	p値	
切片	-2.4831	0.1827	-13.59	<.0001	
学年平均	0.0770	0.0124	6.2	<.0001	1.1947
履修人数[1&2-3&4&5]	0.0639	0.0141	4.55	<.0001	1.4299
I 6事前事後課題の指示	0.5233	0.0555	9.43	<.0001	2.4562
II 1双方向型授業評価	0.1678	0.0493	3.4	0.0007	2.7563
III 2難易度	0.5855	0.0316	18.55	<.0001	1.0173
R2乗				0.2939	
自由度調整R2乗				0.2922	

表 6～8 の重回帰モデルを、図 6 に図示します。

図6 全授業データを用いた重回帰モデル



(数字は推定値、線の太さは関連の強さ、破線はマイナスの関連を示す。説明変数間の相関、および有意水準の記載は省略した。有意水準はほとんどが「 $<.0001$ 」である。)

この結果は、次のように解釈できます。

●「授業満足度」は、以下の条件において高まる。

- ・履修者に高学年が多い
- ・初回に授業説明・授業内で事前事後の学習の指示がある
- ・話し方等が分かりやすい
- ・双方向型の授業が効果的に行なわれている
- ・受講態度に適切な対応がなされている
- ・学習するのにふさわしい環境が保たれている
- ・内容が難しくない場合

⇒「授業満足度」にもっとも大きく影響するのは「話し方や説明の仕方の分かりやすさ」、
次いで「受講態度への適切な対応」である。

●「知的刺激（授業を通じて知的好奇心が刺激される度合い）」は、以下の条件において高まる。

- ・履修者に高学年が多い
- ・シラバスに沿って双方向型の授業が効果的に行なわれている
- ・話し方等が分かりやすい
- ・受講態度に適切な対応がなされている
- ・学習するのにふさわしい環境が保たれている

⇒「知的刺激」にもっとも大きく影響するのは「話し方や説明の仕方の分かりやすさ」である。

●「予習・復習時間」は、以下の条件において長くなる。

- ・履修者に高学年が多い
- ・人数が 20 人未満の授業
- ・内容が難しい
- ・授業内で事前事後学習等の具体的な指示がある
- ・双方向型の授業が効果的に行なわれている場合

⇒「予習・復習時間」にもっとも大きく影響するのは「内容の難易度」および「事前事後課題の指示」である。

【設問項目間の影響】

●「授業満足度」と「知的刺激」では、「話し方や説明の仕方の分かりやすさ」や「受講態度への適切な対応」、が大きく影響する。

●「予習復習時間」には「難易度」、「事前事後課題の指示」が大きく影響する。

●「授業満足度」「知的刺激」「予習復習時間」のいずれに対しても影響するのは、「双方向型の授業」「学年」である。

③ 履修人数ごとのモデルの検討

履修人数ごとのデータに分けて、②と同様の重回帰分析を行った結果を表 9 と表 10 に示します。表 9～10 では、標準誤差、t 値、VIF は省略しましたが、いずれも適切な値です(VIF は最大で 3.9)。

表 9 「授業満足度」を目的変数とした履修人数別重回帰モデル

	「10人未満」 n=396		「10～19人」 n=585		「20人～49人」 n=673		「50人～99人」 n=284		「100人以上」 n=202	
項	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値
切片	0.0207	0.8900	-0.2243	0.0082	-0.1704	0.1544	-0.0962	0.0346	-0.1204	0.2122
千葉 学年平均			0.0161	0.0066	-0.0408	0.0003	0.0267	<.0001	-0.0202	0.0078
I 4シラバス忠実度					0.1799	<.0001	0.1190	<.0001	0.3617	<.0001
I 6事前事後課題の指示	0.1871	<.0001	0.1147	0.0067						
II 1双方向型授業評価			0.0862	0.0138	0.1351	<.0001	0.1094	<.0001		
II 3話し方等分かりやすさ	0.4399	<.0001	0.5749	<.0001			0.4956	<.0001	0.6640	<.0001
II 2教材役立ち度					0.4260	<.0001				
III 2難易度					-0.1212	<.0001				
IV 1受講態度への対応	0.2029	0.0001	0.2657	<.0001	0.4188	<.0001	0.2656	<.0001		
IV 2機器・備品等充実度	0.1611	0.0055								
R2乗	0.6133		0.7915		0.8102		0.9011		0.9326	
自由度調整R2乗	0.6093		0.7897		0.8085		0.9000		0.9316	

表 10 「知的刺激」を目的変数とした履修人数別重回帰モデル

	「10人未満」 n=396		「10～19人」 n=585		「20人～49人」 n=673		「50人～99人」 n=284		「100人以上」 n=202	
項	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値
切片	-0.0286	0.8725	-0.2507	0.0074	0.2920	0.0218	0.4174	0.0006	-0.2294	0.0367
千葉 学年平均			0.0281	<.0001	-0.0584	<.0001			-0.0413	0.0039
I 1授業説明_有無			0.1634	0.0002					0.4258	<.0001
I 4シラバス忠実度										
I 6事前事後課題の指示	0.1146	0.0364			0.2047	<.0001				
II 1双方向型授業評価			0.1661	<.0001	0.4624	<.0001				
II 2教材役立ち度										
II 3話し方等分かりやすさ	0.3819	<.0001	0.4894	<.0001			0.6961	<.0001	0.6211	<.0001
III 2難易度					-0.1438	<.0001	-0.0488	0.0454		
IV 1受講態度への対応	0.3226	<.0001	0.2137	<.0001	0.3550	<.0001	0.2073	<.0001		
IV 2機器・備品等充実度	0.1710	0.0133								
R2乗	0.5247		0.7695		0.7600		0.8840		0.9105	
自由度調整R2乗	0.5199		0.7675		0.7579		0.8827		0.9091	

表 9～10 からは、履修人数が 100 人以上と多くなると説明変数が少なくなる傾向がうかがえます。また、履修人数によらず効く変数と、履修人数が少ないなど特定の場合のみ効く変数とがあることがわかります。

この結果は、以下のように解釈することができます。

●教員の話し方や説明の仕方がわかりやすさ(「話し方等分かりやすさ」)は、履修人数に寄らず、「授業満足度」も「知的刺激」も高める。とくに履修人数が 100 人以上と多い授業の授業満足度等を高めるには非常に効果が高い。加えて、シラバスに沿った授業であることも、授業満足度等を高める。逆に言えば、履修人数が 100 人以上の授業では、「話し方等分かりやすさ」と「シラバス忠実度」以外の要因はあまり影響しない。

●履修人数が 99 人以下の授業では、受講態度に適切な対応がなされ学習にふさわしい環境が保たれていること(「受講態度への対応」)が「授業満足度」「知的刺激」を高める。

●双方向型の授業が効果的に行なわれていること(「双方向型授業評価」)は、履修人数が 10 人～99 人の授業(「知的刺激」では 10 人～49 人の授業)において、授業満足度等を高める。「授業満足度」「知的刺激」ともに、授業数の多い 20 人～49 人の授業においてとくに効果が高い。

●事前事後学習等の具体的な指示があること(「事前事後課題の指示」)や「効き・備品等の充実度」は、履修人数が少ない授業の満足度等を高めるうえで効果がある。

④ 学部ごとのモデルの検討

回答した学生の所属学部の割合が95%以上同じである授業のみを抽出し、それぞれを7学部分のデータに分けて、これまでと同様の重回帰分析を行った結果を表11～17に示します。履修人数別モデルと同様、表では、標準誤差、t値、VIFは省略しましたが、いずれも適切な値です（VIFは最大で3.9）。なお、キャンパス、履修人数は、学部ごとに大きな偏りがあったため、今回は説明変数として取り入れていません。

表11～17のとおり、それぞれの学部で特徴がみられました。

表11 回答者の95%以上が総合福祉学部の学生である授業の重回帰モデル

【総合福祉】

n=664

項	「授業満足度」		「知的刺激」	
	推定値	p値	推定値	p値
切片	-0.1303	0.0455	0.1522	0.1342
学年平均	0.0213	<.0001	0.0438	<.0001
I 6事件事後課題の指示	0.1001	0.0003		
II 1双方向型授業評価			0.1259	<.0001
II 3話し方等分かりやすさ	0.5972	<.0001	0.4785	<.0001
III 2難易度			-0.0500	0.0094
IV 1受講態度への対応	0.3114	<.0001	0.3490	<.0001
R2乗	0.8667		0.8054	
自由度調整R2乗	0.8659		0.8039	

表12 回答者の95%以上が国際コミュニケーション学部の学生である授業の重回帰モデル

【国際コミュニケーション】

n=223

項	「授業満足度」		「知的刺激」	
	推定値	p値	推定値	p値
切片	0.1505	0.4215	0.2957	0.1974
I 6事件事後課題の指示			0.0454	0.5370
II 3話し方等分かりやすさ	0.4889	<.0001	0.5535	<.0001
IV 1受講態度への対応	0.1991	0.0100		
IV 2機器・備品等充実度	0.2627	0.0009	0.2959	0.0007
R2乗	0.6114		0.4970	
自由度調整R2乗	0.6061		0.4901	

表13 回答者の95%以上が看護栄養学部の学生である授業の重回帰モデル

【看護栄養】

n=174

項	「授業満足度」		「知的刺激」	
	推定値	p値	推定値	p値
切片	0.0895	0.4516	0.1070	0.4486
I 4シラバス忠実度	0.3892	<.0001	0.4190	<.0001
II 3話し方等分かりやすさ	0.5732	<.0001	0.5226	<.0001
R2乗	0.8910		0.8420	
自由度調整R2乗	0.8897		0.8401	

表 14 回答者の 95%以上がコミュニティ政策学部学生である授業の重回帰モデル

【コミュニティ政策】

項	「授業満足度」		「知的刺激」	
	推定値	p値	推定値	p値
切片	-0.3328	0.1029	0.1964	0.1472
学年平均			0.0375	0.0239
Ⅱ1双方向型授業評価			0.2845	<.0001
Ⅱ3話し方等分かりやすさ	0.6720	<.0001	0.6114	<.0001
Ⅳ2機器・備品等充実度	0.4088	<.0001		
R2乗	0.7553		0.8016	
自由度調整R2乗	0.7517		0.7971	

表 15 回答者の 95%以上が経営学部学生である授業の重回帰モデル

【経営】

項	「授業満足度」		「知的刺激」	
	推定値	p値	推定値	p値
切片	-0.4838	0.0012	-0.4035	0.0064
Ⅰ1授業説明_有無	0.2348	0.0030		
Ⅱ3話し方等分かりやすさ	0.4994	<.0001	0.5694	<.0001
Ⅳ1受講態度への対応	0.3873	<.0001	0.5247	<.0001
R2乗	0.7808		0.7540	
自由度調整R2乗	0.7777		0.7516	

表 16 回答者の 95%以上が教育学部学生である授業の重回帰モデル

【教育】

項	「授業満足度」		「知的刺激」	
	推定値	p値	推定値	p値
切片	-0.0123	0.8968	-0.3612	0.0098
Ⅰ1授業説明_有無			0.4320	<.0001
Ⅱ1双方向型授業評価			0.6512	<.0001
Ⅱ3話し方等分かりやすさ	0.6714	<.0001		
Ⅳ1受講態度への対応	0.3230	<.0001		
R2乗	0.9054		0.8363	
自由度調整R2乗	0.9043		0.8345	

表 17 回答者の 95%以上が人文学部学生である授業の重回帰モデル

【人文学】

項	「授業満足度」		「知的刺激」	
	推定値	p値	推定値	p値
切片	-0.2631	0.0319	0.1928	0.2549
Ⅱ3話し方等分かりやすさ	0.7682	<.0001	0.7228	<.0001
Ⅳ1受講態度への対応	0.3027	<.0001	0.1952	0.0188
R2乗	0.9094		0.8019	
自由度調整R2乗	0.9079		0.7987	

7. 授業方法は授業満足度等はどう影響するか？～個別データを用いた分析～

(1) 分析の方針

個別データを用い、以下の手順で分析を進めます。

- ① 相関分析、主成分分析、回帰分析等を行い、「授業の方法に関する評価」※項目間の関連、授業方法評価項目と「授業満足度」等の関連を検討する。

※「授業の方法に関する評価」は、「双方向型授業評価」「教材役立ち度」「話し方等分かりやすさ」の3項目(p.2 参照)。

- ② 授業方法評価の項目の組み合わせ(たとえば「双方向型授業評価」が高く「話し方等分かりやすさ」の評価が低い場合など)ごとの「授業満足度」等の違いをみて、どのような組み合わせが学生の授業満足度等を高めるのに有効かを検討する。

(2) 授業方法に関する評価項目の特徴

① 個別データの相関係数行列

個別データ、および個別データと比較的相関が高かった「履修人数」の相関係数行列を表 18 に示します。授業方法の評価3項目はいずれも高相関で、以下の特徴がありました。

- 「話し方等わかりやすさ」と「教材役立ち度」の相関がとくに高い($r=0.74$)。
- 「話し方等わかりやすさ」は、授業満足度等との相関も非常に高い(授業満足度: $r=0.74$ 、知的刺激: $r=0.71$)。

表 18 個別データの相関係数行列

	履修人数(5水準)	I 1授業説明_有無	I 2授業説明_理解度	I 3授業説明_取組み度	I 4シラバス_忠実度	I 5シラバス_目標達成度	I 6事前事後課題の指示	I 7双方向性工夫の有無	I 8予習復習時間	II 1双方向型授業評価	II 2教材役立ち度	II 3話し方等分かりやすさ	III 1知的刺激	III 2難易度	III 3授業満足度	IV 1受講態度への対応	IV 2機器・備品等充実度	IV 3履修人数適切さ
履修人数(5水準)	1.00	-.13	-.15	-.18	-.13	-.17	-.17	-.17	-.12	-.24	-.14	-.18	-.18	.06	-.19	-.17	-.15	-.20
I 1授業説明_有無	-.13	1.00	.72	.56	.67	.59	.63	.62	.12	.53	.59	.59	.56	-.02	.58	.56	.59	.54
I 2授業説明_理解度	-.15	.72	1.00	.62	.60	.59	.55	.56	.12	.46	.52	.55	.52	-.07	.53	.49	.53	.49
I 3授業説明_取組み度	-.18	.56	.62	1.00	.57	.68	.54	.55	.18	.47	.48	.50	.54	-.02	.53	.47	.49	.46
I 4シラバス_忠実度	-.13	.67	.60	.57	1.00	.67	.63	.62	.12	.52	.58	.58	.54	-.03	.56	.54	.58	.54
I 5シラバス_目標達成度	-.17	.59	.59	.68	.67	1.00	.62	.63	.17	.55	.55	.58	.59	-.08	.59	.52	.54	.50
I 6事前事後課題の指示	-.17	.63	.55	.54	.63	.62	1.00	.72	.18	.58	.59	.60	.56	-.03	.57	.54	.58	.52
I 7双方向性工夫の有無	-.17	.62	.56	.55	.62	.63	.72	1.00	.17	.61	.62	.64	.59	-.03	.61	.56	.58	.54
● I 8予習復習時間	-.12	.12	.12	.18	.12	.17	.18	.17	1.00	.17	.12	.14	.17	.17	.16	.14	.12	.11
II 1双方向型授業評価	-.24	.53	.46	.47	.52	.55	.58	.61	.17	1.00	.63	.64	.58	-.04	.59	.54	.55	.51
II 2教材役立ち度	-.14	.59	.52	.48	.58	.55	.59	.62	.12	.63	1.00	.74	.64	-.05	.67	.57	.64	.56
II 3話し方等分かりやすさ	-.18	.59	.55	.50	.58	.58	.60	.64	.14	.64	.74	1.00	.71	-.10	.74	.58	.61	.56
● III 1知的刺激	-.18	.56	.52	.54	.54	.59	.56	.59	.17	.58	.64	.71	1.00	-.06	.79	.56	.59	.54
III 2難易度	.06	-.02	-.07	-.02	-.03	-.08	-.03	-.03	.17	-.04	-.05	-.10	-.06	1.00	-.06	.02	.00	.00
● III 3授業満足度	-.19	.58	.53	.53	.56	.59	.57	.61	.16	.59	.67	.74	.79	-.06	1.00	.61	.63	.58
IV 1受講態度への対応	-.17	.56	.49	.47	.54	.52	.54	.56	.14	.54	.57	.58	.56	.02	.61	1.00	.72	.69
IV 2機器・備品等充実度	-.15	.59	.53	.49	.58	.54	.58	.58	.12	.55	.64	.61	.59	.00	.63	.72	1.00	.74
IV 3履修人数適切さ	-.20	.54	.49	.46	.54	.50	.52	.54	.11	.51	.56	.56	.54	.00	.58	.69	.74	1.00

② 授業方法の評価 3 項目の主成分分析、因子分析

授業方法の評価 3 項目の関連をみるため、相関係数行列に基づく主成分分析(図 7)、その結果を参考に因子分析を行いました(表 19)。この結果から、授業方法の評価 3 項目は一因子構造だと解釈することができます(図 8)。なお、主成分分析、因子分析ともに、全データだけでなく学部別データでも行いましたが、いずれも類似した結果でした。

図 7 「授業方法の評価」3 項目の主成分分析結果

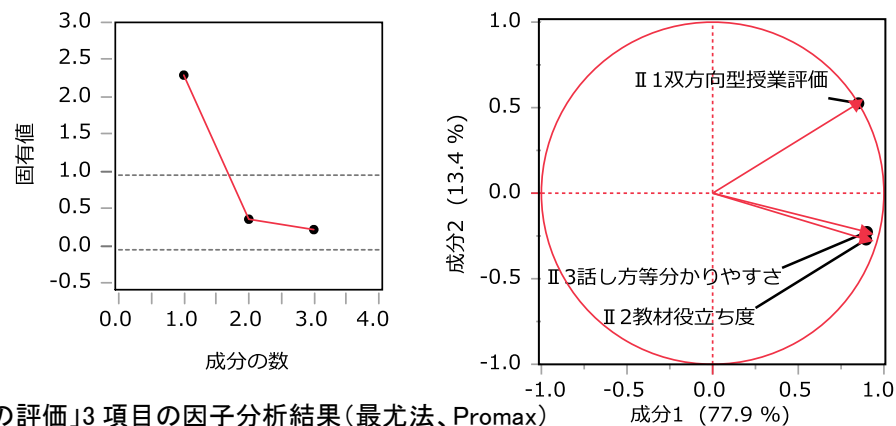
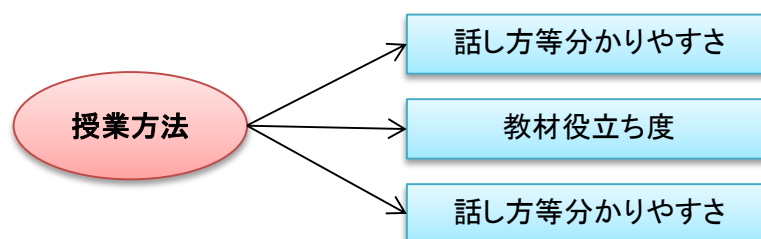


表 19 「授業方法の評価」3 項目の因子分析結果(最尤法、Promax)

	全データ	学部別データ							
		総合福祉	国際コミュニケーション	看護栄養	コミュニティ政策	経営	教育	人文	その他
データ数	60,374	24,001	2,399	11,118	3,889	7,190	6,337	4,391	137
II 3 話し方等分かりやすさ	0.87	0.85	0.91	0.85	0.88	0.89	0.89	0.86	0.81
II 2 教材役立ち度	0.85	0.83	0.91	0.87	0.85	0.88	0.88	0.82	0.72
II 1 双方向型授業評価	0.74	0.69	0.84	0.69	0.75	0.85	0.84	0.74	0.68
分散	2.02	1.88	2.37	1.95	2.05	2.29	2.27	1.97	1.64
寄与率	67.34	62.58	78.86	64.87	68.31	76.27	75.79	65.61	54.76

図 8 「授業方法の評価」因子構造イメージ



③ 授業方法の評価と授業満足度等の関連(回帰分析)

授業方法の評価項目を説明変数とし、授業満足度等を目的変数とした回帰分析を行いました。いずれも「授業方法の評価が高いと授業満足度等が高い」という結果ですが、あてはまりの良さは、項目ごとに差がありました。

- 授業方法の評価によって「知的刺激」「授業満足度」は大きく影響を受けるが、「予習復習時間」はあまり変化しない。
- 「知的刺激」「授業満足度」に効果がある授業方法は以下の順(単回帰分析結果)
⇒「話し方等わかりやすさ」>「教材役立ち度」>「双方向型授業評価」
- 「予習復習時間」には、「双方向型授業評価」が効果的。
⇒「教材役立ち度」は「予習復習時間」には効果はない。

表 20 単回帰分析結果(目的変数:授業満足度等, 説明変数:授業方法の評価)

目的変数→

「知的刺激」

「授業満足度」

「予習復習時間」

項	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値
切片	1.3525	<.0001	1.3687	<.0001	1.1574	<.0001
Ⅱ 1 双方向型授業評価	0.5734	<.0001	0.5759	<.0001	0.2351	<.0001
R2乗	0.3409		0.3466		0.0297	

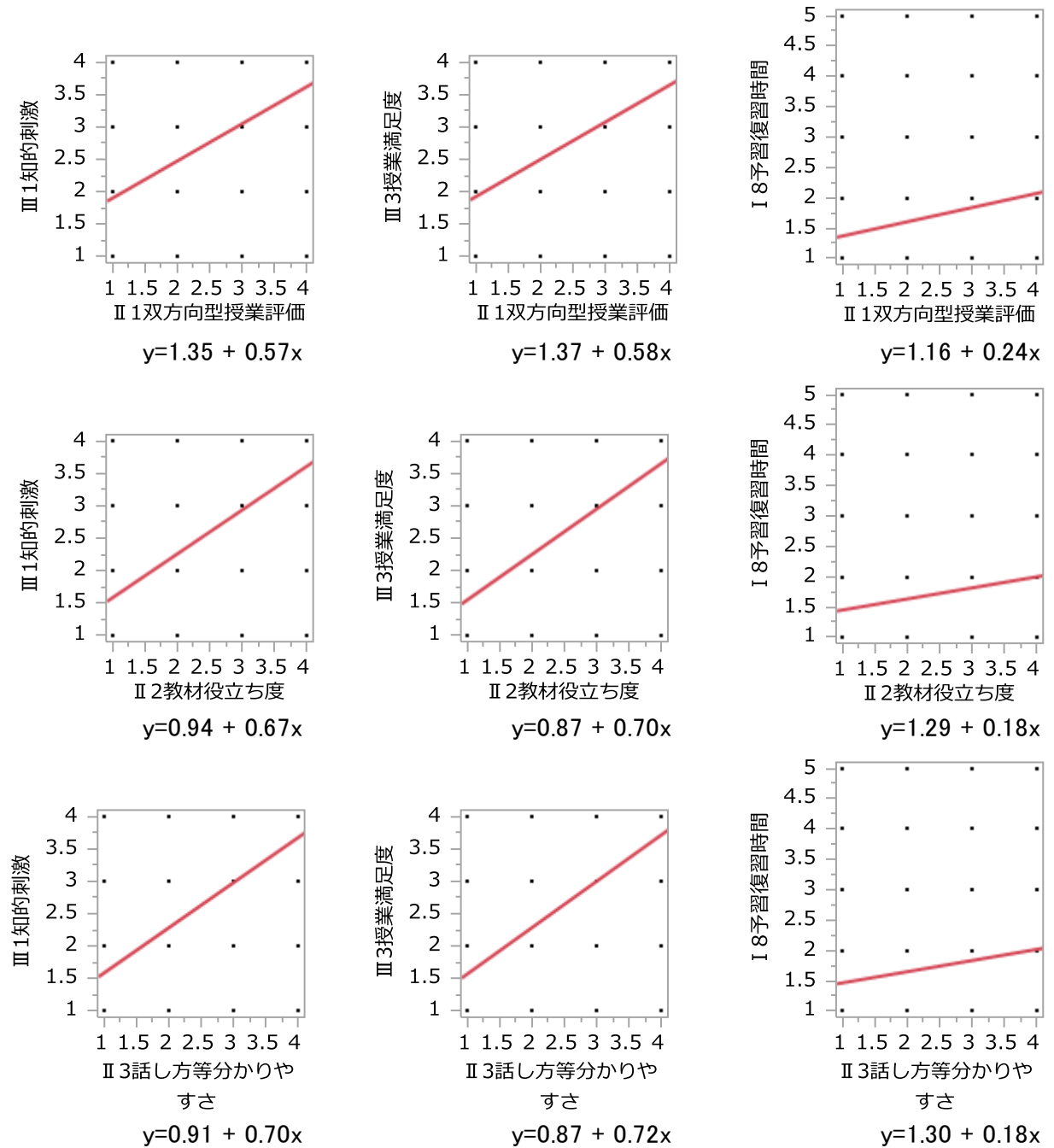
項	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値
切片	0.9365	<.0001	0.8725	<.0001	1.2946	<.0001
Ⅱ 2 教材役立ち度	0.6739	<.0001	0.7007	<.0001	0.1822	<.0001
R2乗	0.4064		0.4425		0.0154	

項	推定値	p値	推定値	p値	推定値	p値
切片	0.9116	<.0001	0.8745	<.0001	1.3013	<.0001
Ⅱ 3 話し方等分かりやすさ	0.6974	<.0001	0.7165	<.0001	0.1844	<.0001
R2乗	0.5081		0.5409		0.0184	

表 21 重回帰分析結果(目的変数:授業満足度等, 説明変数:授業方法の評価 3 項目, ステップワイズ法)

知的刺激				授業満足度				予習復習時間			
項	推定値	p値	VIF	推定値	p値	VIF	推定値	p値	VIF	推定値	p値
切片	0.5150	<.0001		0.4646	<.0001		1.0869	<.0001			
Ⅱ 1 双方向型授業評価	0.1656	<.0001	1.8536	0.1421	<.0001	1.8471	0.1962	<.0001	1.6895		
Ⅱ 2 教材役立ち度	0.1988	<.0001	2.4101	0.2327	<.0001	2.4058					
Ⅱ 3 話し方等分かりやすさ	0.4566	<.0001	2.4706	0.4680	<.0001	2.4634	0.0600	<.0001	1.6895		
R2乗	0.5512			0.5861			0.0307				
自由度調整R2乗	0.5512			0.5861			0.0306				

図9 単回帰分析結果(目的変数:授業満足度等, 説明変数:授業方法の評価)



(3) どのような授業方法が学生の授業満足度等を高めるか

① 授業方法の評価パターン別合成変数の作成

授業方法の評価項目の組み合わせ(たとえば「双方向型授業評価」が高く「話し方等分かりやすさ」の評価が低い場合など)ごとの「授業満足度」等の違いを検討するため、まず、以下のように組合せパターン別の合成変数を作成しました。

- 「教材役立ち度」は「話し方等分かりやすさ」との相関が非常に高いことなどから除外
- 分布の偏りから、「双方型授業評価」「話し方等分かりやすさ」を 4 水準から 2 水準(「大いに思う」と「それ以外」)に各々加工(図 10)
- 2 変数 2 水準の組み合わせ 4 パターンの合成変数を作成(表 22)

図 10 個別データ分布(左)と 2 水準データの分布(右)

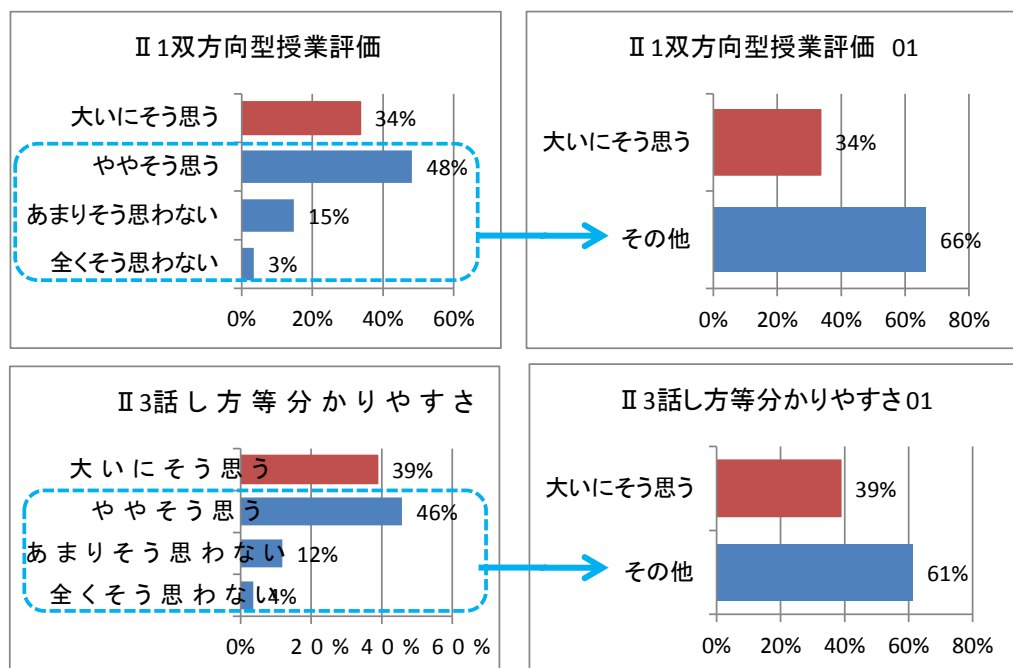


表 22 授業方法の評価パターン別合成変数

	II 1 双方向型 授業評価	II 3 話し方等 分かりやすさ	
パターン1 両方「その他」	0	0	(n= 33,181 55%)
パターン2 「双方向型授業評価」のみ	1	0	(n= 3,561 6%)
パターン3 「話し方等分かりやすさ」のみ	0	1	(n= 6,657 11%)
パターン4 両方「大いに思う」	1	1	(n= 16,609 28%)
			合計 = 60,008 100%
			欠測値 = 366

② 授業方法の評価パターン別「授業満足度」等の平均値比較

表 22 の 4 パターンごとに「知的刺激」「授業満足度」「予習復習時間」の平均値をそれぞれ算出したところ、いずれも、パターン 1 (両方「その他」) の平均値がもっとも低く、パターン 4 (両方「大いにそう思う」) がもっとも高いことが明らかになりました (図 11)。項目ごとの違いは以下の通りで、いずれの組み合わせでも有意差がありました (表 23～24)。

- 「知的刺激」と「授業満足度」の平均点は以下の順。

⇒両方「大いにそう思う」>「話し方等分かりやすさ」のみ評価が高い>「双方向型授業評価」のみ評価が高い>両方「その他」

- 「予習復習時間」の平均点は以下の順。

⇒両方「大いにそう思う」>「双方向型授業評価」のみ評価が高い>「話し方等分かりやすさ」のみ評価が高い>両方「その他」

この結果から、授業方法には相乗効果があり、「話し方等分かりやすさ」と「双方向型授業評価」どちらか一方だけではなく、両方の評価が高まることによって授業満足度等が大きく高まるといえます。

図 11 授業方法の評価パターン別「知的刺激」「授業満足度」「予習復習時間」平均値比較

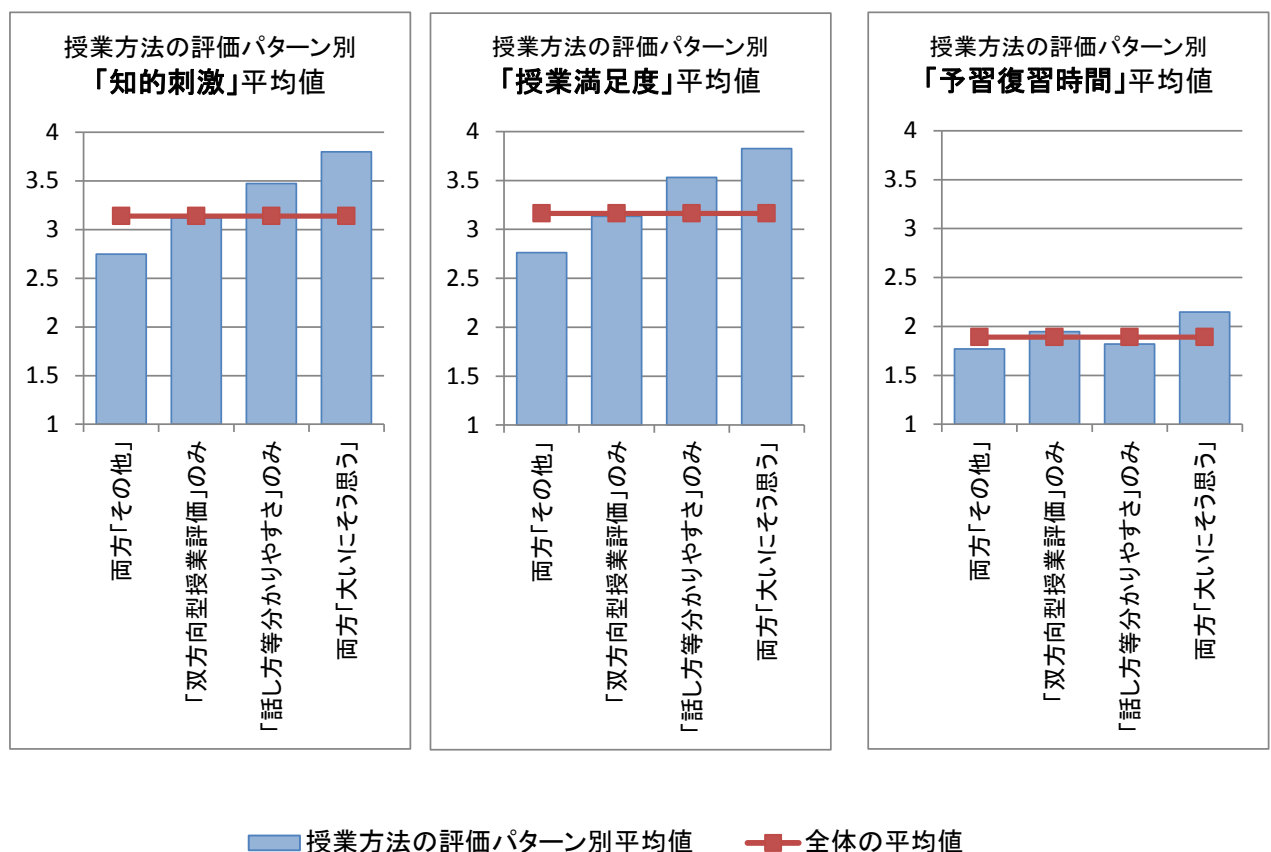


表 23 授業方法の評価パターンによる一元配置の分散分析

	要因	自由度	平方和	平均平方	F値	p値
「知的刺激」	授業方法の評価パターン	3	12957.39	4319.13	11704.34	<.0001
	誤差	59606	21995.77	0.37		
	全体(修正済み)	59609	34953.16			
	R2乗	0.370707				
「授業満足度」	授業方法の評価パターン	3	13119.3	4373.1	12188.05	<.0001
	誤差	58370	20943.28	0.36		
	全体(修正済み)	58373	34062.58			
	R2乗	0.385153				
「予習復習時間」	授業方法の評価パターン	3	1614.03	538.01	485.9622	<.0001
	誤差	59277	65625.73	1.107		
	全体(修正済み)	59280	67239.77			
	R2乗	0.024004				

表 24 多重比較 (Tukey-Kramer の HSD 検定を使ったすべてのペアの比較)

差の順位のレポート

文字の接続レポート

	水準	差	差の標準誤差	下側信頼限界	上側信頼限界	p値
「知的刺激」	パターン4 -1	1.0506	0.0058	1.0357	1.0654	<.0001
	パターン3 -1	0.7251	0.0082	0.7041	0.7461	<.0001
	パターン4 -2	0.6811	0.0112	0.6522	0.7100	<.0001
	パターン2 -1	0.3695	0.0107	0.3419	0.3971	<.0001
	パターン3 -2	0.3556	0.0126	0.3231	0.3881	<.0001
	パターン4 -3	0.3255	0.0088	0.3028	0.3482	<.0001
「授業満足度」	パターン4 -1	1.0622	0.0058	1.0474	1.0771	<.0001
	パターン3 -1	0.7688	0.0081	0.7479	0.7897	<.0001
	パターン4 -2	0.6905	0.0112	0.6618	0.7193	<.0001
	パターン3 -2	0.3971	0.0126	0.3648	0.4293	<.0001
	パターン2 -1	0.3717	0.0107	0.3443	0.3992	<.0001
	パターン4 -3	0.2935	0.0088	0.2709	0.3160	<.0001
「予習復習時間」	パターン4 -1	0.3788	0.0101	0.3529	0.4046	<.0001
	パターン4 -3	0.3268	0.0153	0.2873	0.3662	<.0001
	パターン4 -2	0.2021	0.0195	0.1520	0.2523	<.0001
	パターン2 -1	0.1767	0.0187	0.1287	0.2246	<.0001
	パターン2 -3	0.1246	0.0220	0.0682	0.1810	<.0001
	パターン3 -1	0.0520	0.0142	0.0155	0.0885	0.0014

水準		平均
パターン4	A	3.7985102
パターン3	B	3.4730259
パターン2	C	3.1174146
パターン1	D	2.7479571

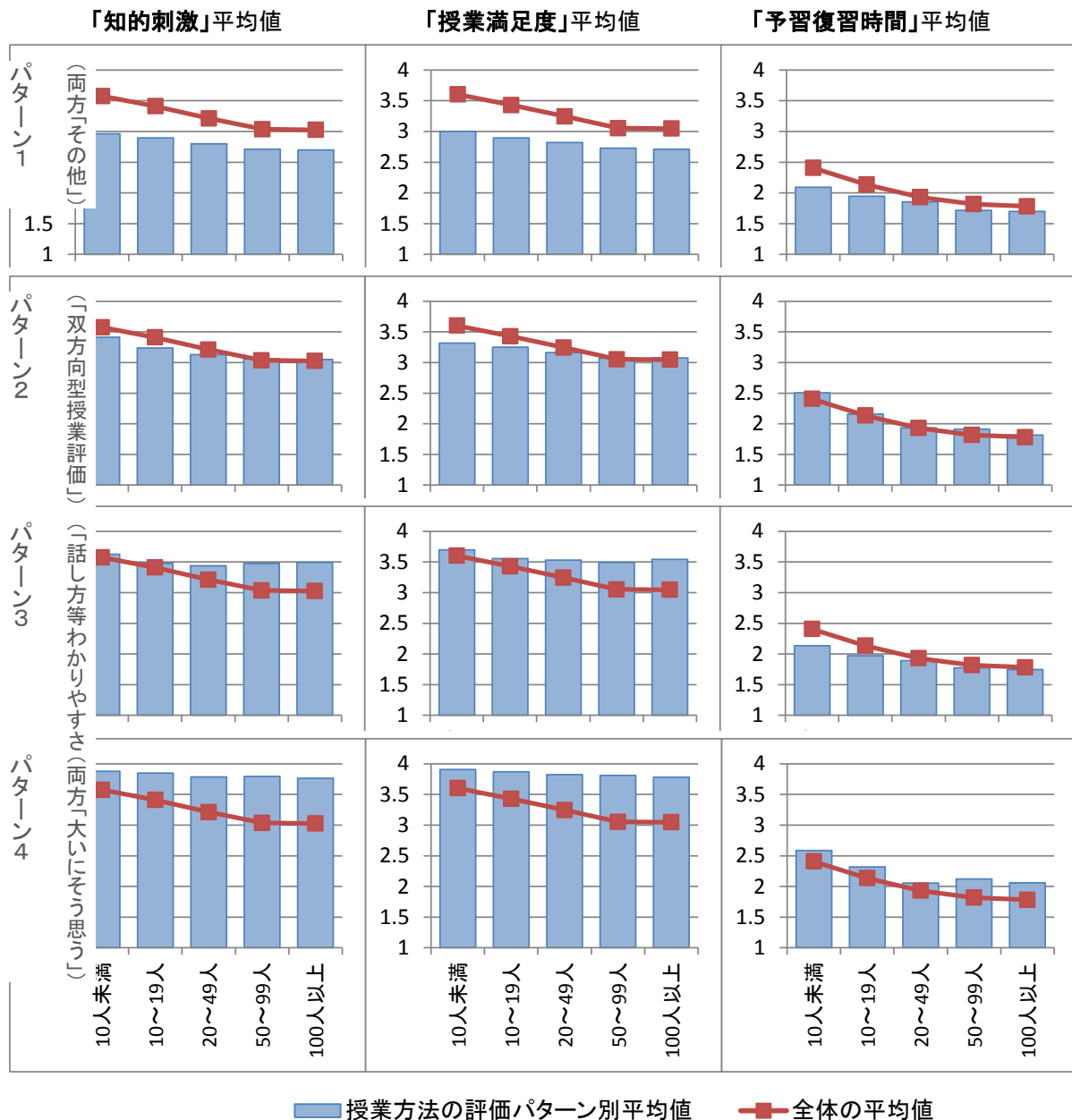
パターン4	A	3.8250946
パターン3	B	3.5316417
パターン2	C	3.1345768
パターン1	D	2.7628476

パターン4	A	2.148218
パターン2	B	1.946084
パターン3	C	1.8214665
パターン1	D	1.7694329

* 同じ文字で接続されていない水準には有意差あり

履修人数ごとにデータを分け、同じように、授業方法の評価パターンごとに平均値を算出、比較したところ、同じように、授業方法の相乗効果が確認できました(図 12)。履修人数ごとのデータでは、全体の平均値が低い履修人数の多い授業において、効果が大きくなっています。

図 12 「履修人数」ごとの授業方法の評価パターン別平均値比較



※個別データ数 : 10人未満(n=1,666), 10～19人(n=6,816), 20～49人(n=17,438),
50～99人(n=14,821), 100人以上(n=19,188)

平成28年度 学生用 授業アンケート調査[前学期・後学期]

このアンケート調査は、みなさんの学びがより深められるよう、授業内容・授業方法の改善・工夫に向けての基礎的データの収集を目的として、実施するものです。

また、大学がみなさんの学習の到達目標を明確にし、学修成果が得られる授業・教育を進めるための基礎資料としても利用します。

調査の結果は報告書にまとめて公表をするほか、大学ホームページにも公開します。回答は無記名であり、個々の回答結果が他に漏れたり、成績に影響したりすることはありません。ありのままを記入してください。

淑徳大学 教育向上委員会

●はじめに、この科目の科目名および担当教員名を記入してください。

科目名

担当教員名

*科目代表者の氏名を記入してください

●次に、あなたの所属等について伺います。

「学部・学科」「学年」「性別」「この授業の履修」の各欄について、該当する番号に○をつけてください。

学部・学科	総合福祉学部・社会福祉学科	1
	総合福祉学部・教育福祉学科	2
	総合福祉学部・実践心理学科	3
	国際コミュニケーション学部・人間環境学科	4
	国際コミュニケーション学部・経営コミュニケーション学科	5
	国際コミュニケーション学部・文化コミュニケーション学科	6
	看護栄養学部・看護学科	7
	看護栄養学部・栄養学科	8
	コミュニティ政策学部・コミュニティ政策学科	9
	経営学部・経営学科	10
	経営学部・観光経営学科	11
	教育学部・こども教育学科	12
	人文学部・歴史学科	13
	人文学部・表現学科	14
	その他	15

学年	1年次生	1
	2年次生	2
	3年次生	3
	4年次生以上	4
	科目等履修生	5
	その他	6

性別	男	1
	女	2

— アンケート項目は、裏面になります —

●授業に関する事項について伺います。

下記のⅠ～Ⅴのすべての設問に回答してください。なお、「Ⅴ自由記述欄」を除いて、設問右（4段階）の該当する番号に○を付けてください（一部、5段階）。

I	授業の構成について	大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	
1	初回の授業において、授業目的、授業内容、到達目標、評価方法等の説明がありましたか	4	3	2	1	
2	あなたは、その説明に対して理解ができましたか	4	3	2	1	
3	あなたは、理解した内容を達成するため、意欲的に取り組みましたか	4	3	2	1	
4	授業はシラバスにそって行われましたか	4	3	2	1	
5	あなたは、シラバスに記載された到達目標を達成できましたか	4	3	2	1	
6	授業のなかで「事前学習」および「事後学習」等、「授業時間以外の学習内容・方法（資料・課題等）」について、具体的に指示がありましたか	4	3	2	1	
7	「質疑応答の時間の設定」や「課題レポート・小テストの返却」等、疑問の解決や学習の理解を深めるための工夫がありましたか	4	3	2	1	
8	あなたが、この授業1回（90分）のために事前学習・事後学習に費やした時間は平均（ ）であった	5 4時間以上	4 3時間以上4 時間未満	3 2時間以上3 時間未満	2 1時間以上 2時間未満	1 1時間未満
II	授業方法について	大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	
1	双方向型の授業（発表、討論、協同学習、調べ学習等）は、効果的に行われましたか	4	3	2	1	
2	教材（教科書、板書、プリント、スライド、ビデオ等）は、授業の理解に役立ちましたか	4	3	2	1	
3	この授業では、話し方や説明の仕方がわかりやすかったですか	4	3	2	1	
III	授業に対する評価について	大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	
1	この授業を通して知的好奇心が刺激されましたか	4	3	2	1	
2	あなたの授業内容の理解において、難易度は適切でしたか	5 難しい	4 やや難しい	3 適切	2 やややさしい	1 やさしい
3	この授業を受講して、満足していますか	4	3	2	1	
IV	授業環境について	大いに そう思う	やや そう思う	あまりそう 思わない	全くそう 思わない	
1	受講態度（私語、携帯電話の使用等への注意等）に適切な対応がなされ、学習するのにふさわしい環境が保たれていましたか	4	3	2	1	
2	授業に関する機器・備品等は充実していましたか	4	3	2	1	
3	この授業を受けるにあたり、履修人数は適切でしたか	4	3	2	1	
V	自由記述欄	*この欄は、授業の改革や改善に繋げるためのコメント欄となります。人格を否定するようなコメントや授業に関係のないことを書いてはいけません。				
1	この授業を通して、どんなことが身についたと思いますか。自由に記入してください。 （例：「〇〇する力が身についた」「●●●ができるようになった」等）					
2	この授業を通して、大学や教員が工夫・改善すべき点がある場合は、自由に記入してください。					

アンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。

2015年度 淑徳大学 授業アンケート全学報告書

■発行日 平成28年9月30日

■発行者 淑徳大学

〒260-8701 千葉県千葉市中央区大蔵寺町200

TEL.043-265-7331(代表)

■編集 淑徳大学高等教育研究開発センター

■第二部分 株式会社 生活環境工房あくと
